

平成27年度  
事業報告



学校法人 加計学園

# 建学の理念

ひとりひとりの  
若人が持つ能力を  
最大限に引き出し  
技術者として  
社会人として  
社会に貢献できる  
人材を養成する

## 目次

理事長挨拶	1
法人全般	2
岡山理科大学	18
倉敷芸術科学大学	29
千葉科学大学	38
岡山理科大学附属高等学校	45
岡山理科大学附属中学校	50
岡山理科大学専門学校	54
玉野総合医療専門学校	59

# 理事長挨拶

学校法人 加計学園  
理事長・総長 加計 晃太郎



第2次安倍内閣の発足に伴い、「21世紀の日本にふさわしい教育体制を構築し、教育の再生を実行に移していくため、内閣の最重要課題の一つとして教育改革を推進する」ことを目標に教育再生実行会議が設置され、平成25年1月に最初の会合が開催されました。

安倍総理はこの会合で、「教育再生は経済再生と並ぶ日本国の最重要課題であること」と提言され、今日に至るまで、「教育、教師の在り方」「制度の在り方」「入学制度の在り方」「いじめ問題への取り組み」等々、幅広い課題に取り組んできておられます。

また、全国の大学におきましても「大学再生」に向けての独自の取り組みが行われており、特に私学関係者におきましては待ったなしの改革に迫られております。

本学園の平成27年度事業におきましても、それらの課題に対して取り組むのみならず、建学の理念に基づいた本学園独自のアプローチを提案、実践して参りました。

一例を挙げますと、「理工系教育を中心とした教育研究」「学際領域の研究、SSH（スーパーサイエンスハイスクール）事業の推進」「イマージョン教育の導入」「海外の大学を始めとした教育機関との相互交流による国際感覚を持った人材養成」「国際弁論大会の開催」などがあり、これらは今後も継続して取り組んでいくものであります。

さらに、学園傘下の各設置校において教育研究内容、施設設備の充実をはじめ、来たるべき時代に活躍できる人材養成を見据えた新しい学部・学科・コースの開設、中・高大連携等々、従来の枠に捕らわれることなく「教育創造」とも言うべき改革を絶えず推進して参りました。

平成28年度に開設致しました岡山理科大学教育学部もその改革の一環であり、理系的発想と国際性を併せ持った今までにない教員養成をめざして参ります。

また、これに留まらず、各設置校におきましても、絶えず教育体制のチェックと充実、新しい「教育創造」へのチャレンジ等々を展開しつつ、教育成果を学園内で完結するのではなく、広く地元地域へ還元することで地方創生、さらには学術振興にも貢献することを本学園の使命と捉え、地方自治体との包括協定のもとに積極的に交流、連携することで微力ながらも所期の目的を達成できたと思っております。

さらに、前出の海外交流協定校との交流や本学園主催の外国人による日本語弁論国際大会等は、教育研究の場における国際交流を通しての世界平和実現という創立者の悲願を実現したものであり、今後もさらなる充実、拡大を図って行こうと思っております。

最後に、本学園は、「現状維持は退歩である」という信念の下、今後も来たるべき新時代、新社会の創造者、貢献者の育成と地域貢献、世界平和に微力を捧げて参る所存でございますので、教職員各位のさらなる奮闘に期待するものであります。

## 参考 H27 年度 事業計画

21 世紀は、知識・情報・技術の活用が社会のあらゆる領域での活動の基盤となる「知識基礎社会」の到来と言われているなか、ICT の普及等により、加速度的にグローバル化が進み、我が国の社会・経済・文化に大きな影響を与えています。

社会環境が急速に変化するなか、高等教育機関には、グローバル人材の育成や研究を通じたイノベーションの創出、経済再生、地域再生及び活性化に対応できる人材の育成がこれまで以上に期待されています。

一方、日本政府はわが国の人口減少を克服し、地方創生を成し遂げるために「2060 年に 1 億人程度の人口を維持する」という中長期展望を示し、その実現に向けて、今年度を初年度として「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定しています。この主な施策のなかで、地方大学等の活性化のため「地方大学等創生 5 か年戦略」として、①知の拠点としての地方大学強化プラン②地元学生定着促進プラン③地域人材育成プランの取組を推進しています。

本学園では、建学の理念に基づき、理工系教育を中心とした教育研究、学際領域の研究、SSH 事業の推進、イマージョン教育の導入、さらには海外の大学をはじめとした教育機関と交流することで国際感覚を身につけた人材を養成しております。

各設置校においては、既設学部・学科の教育研究の充実はもちろんのこと、常に時代を先取りした学部・学科改組、コースの再編や中・高大連携等、既存のあらゆる枠組を超え、かつ、地域や海外との連携により新たな価値を創造し得る取組を積極的に推進することによって、活力ある学園づくりを目指していききたいと思います。今年度開設しました岡山理科大学附属高等学校教育学科の設置と平成 28 年度開設予定の岡山理科大学教育学部との連携もその試みの一つであり、科学的素養と国際性を身につけた新しい教員の養成による相乗効果に期待しているところです。

各設置校の創立記念事業を契機に、学長・校長のリーダーシップのもと、教職員が力を合わせて教育の質的転換を図り、地域や世界で活躍する人材を社会に輩出したいと考えています。

# 平成27年度 事業報告

## 法人全般

### 法人としての取組

#### ■三大学学長会議

岡山理科大学・倉敷芸術科学大学・千葉科学大学の学長及び事務局長等による会議を毎月1回定期的に行い、各大学の近況を報告し、共通性のある課題を検討しています。また、学園の将来構想を具現化するための検討を始めとし、更には、学園として各種の規程の改正や定員是正の問題などについての意見を求め、三大学の足並みが揃うように調整を行いました。

#### ■諸規程の見直し

##### ・就業規則の変更

就業規則について、配偶者の出産時における家庭生活支援を推進するために休暇制度を見直す等、現在の社会環境に応じた内容に変更し、平成27年4月1日に施行しました。

##### ・懲戒処分に係る規程の整備

懲戒処分に係る規程及び懲戒処分の指針を整備し、平成27年4月1日に施行しコンプライアンスの徹底に努めました。

##### ・学長等選考規程

学校教育法等の改正に伴い、学長選考規程、学部長選考規程、研究科長選考規程の見直しを行い、学園として統一した選考規程を整備し、平成27年4月1日に施行しました。

##### ・旅費規程

経費削減の観点から国内旅費規程及び海外旅費規程の見直しを行い、平成27年4月1日に施行しました。

#### ■教職員の人材育成

##### ・職員研修

平成25年度に研修の基盤づくりが一区切りしたことに伴い、今後2年間は、一般職員（特に若手職員）及び管理職（次世代を担う役職者）を中心として体系的な研修を実施しました。

テーマ/タイトル	研修対象
加計学園の職員として	新採用職員
新採用事務職員研修会①	事務職員初任者 (主に採用1~3年目)
設置校別入試総括と今年の方針(大学編)	学園職員 (主に大学職員)
公平から公正へ、大学入学希望者学力評価テストの目指すもの(中教審答申を踏まえて)	学園職員 (主に大学職員)
ハラスメント防止講演会	学園職員
経常費補助金の概要と実務処理について	学園職員
新採用事務職員研修会②	事務職員初任者 (主に採用1~3年目)
役職者研修(大学事務職員論)	学園職員(役職者)
知と汗と涙の近大流コミュニケーション戦略	学園職員
管理者メンタルヘルス教育研修会	学園職員(役職者)
障害者支援講演会	学園職員
大学改革を推進するための組織マネジメント	学園職員
役職者研修 ①プレセミナー	学園職員 (課長以上)
②マネージメントと自己理解	
③マネージャーの役割と問題抽出	
④マネージメントスキル(人づくりの工夫)	
⑤マネージメントスキル(行動づくりと業績創造の工夫)	
異文化理解のために	事務職員初任者 (主に採用1~3年目)
① コミュニケーションツールの制作	
② アメリカ・ブラジル研修団の来訪に伴い ・安芸太田町における1泊研修のサポート ・加計国際まつり(国際屋台の運営)	
③ 国際日本語弁論大会開催に伴い ・予選会の運営サポート(ミャンマー、マレーシア) ・設置校訪問のサポート ・本大会の企画運営のサポート	
④ 研修成果発表会	



### ・進化する自己点検・勤務考課

事務職員一人ひとりが、業務改善や連携の強化など活力ある組織を目指すべく、各部署・個人ごとに目標を持って取り組みます。5か年計画の最後の年度になることから、各部署の業務内容について、統一様式の検討を行いました。

### ・私立大学等経常費補助金研修会

経常費補助金の知識の向上と精度の高い補助金申請を目指して、補助金研修会を行いました。

① 7月10日（金）於：岡山理科大学

② 7月13日（月）於：倉敷芸術科学大学

③ 9月8日（火）於：千葉科学大学

### ・学校法人会計基準の一部改正

平成27年4月1日施行の学校法人会計基準に対応した計算書を作成しました。

## ■ 労務管理

### ・外国人雇用

グローバル化に対応するため外国人雇用における労働契約及び労働条件について検討を行いました。

### ・メンタルヘルス

労働安全衛生法改正に伴い、平成27年12月1日以降に実施義務となったストレスチェック制度について衛生委員会にて審議し、本年度よりストレスチェックに関する規程を整備するとともに、実施に向けた準備を進め、メンタル不調者への職場復帰支援についても検討を行いました。

### ・改正労働契約法への対応

平成24年8月10日公布の労働契約法改正による、有期雇用労働者の雇用の在り方について、引き続き検討し、大学非常勤講師の就業に関する規程を整備し、12月1日に施行しました。

### ・次世代育成支援行動計画の策定

次世代育成支援対策推進法に基づき、行動計画（第3期：平成27年4月1日から5か年間）を策

定しました。

### ・リスク管理

自然災害等の緊急時対応リスク、業務リスク等の緊急時対応リスク以外のリスク、コンプライアンスリスク等、リスク内容の洗い出しを行いました。

### ・災害対策

防災訓練、救急救命講習等を実施し、自然災害についての認識を深め、救助工具の設置、備蓄食糧等を含めた災害に対する備えを充実させます。



### ・マイナンバー制への対応

平成27年10月から通知されるマイナンバーの収集及び取り扱いに対応できる体制を構築するにあたり、学園特定個人情報取扱規程を整備し、研修会の実施により周知を図るとともに、収集・保管管理対策を講じました。

## ■ 環境整備事業

### ・省エネルギーの推進

平成21年度より省エネルギー推進委員会を定期的に開催し、省エネルギーに対する教職員の意識向上に努めています。毎年度、原単位（エネルギー使用量を床面積で除した値）が1%削減を目標に取り組み、今年度も削減目標を達成しました。

### ・環境整備

学生生徒及び職員にとってより快適な学習・研究及び職場環境の提供に努めていきます。

50周年記念館周辺及び正門前道路側面の草花植栽を行いました。

岡山理科大学A1号館が平成28年3月18日に竣工しました。

・フロン回収・破壊法への対応

平成27年4月1日施行のフロン類の使用の合理化及び管理の適正化に関する法律の改正に伴い、定期点検を実施しました。

■特命事業推進

学校法人の事業活動の受注及び代行業務を行い、快適な環境整備、事業の効率化を図り、学生・生徒のインターンシップの場として積極的に活用し、教育研究活動の貢献を行いました。

■その他事業

・包括連携

を目指し、包括連携協定先と地域社会の発展と学術の振興を推進しました。

提携先	包括連携事業イベント他	
岡山県 真庭市	H27.10.11	「キッズイベントin 真庭」
岡山県 玉野市	H27.10- H27.12- H27.5-	市民公開講座の開催 (計3回) 玉野商業高校生徒の実習受け入れ (計2回) 玉野港フェスティバル参加 (計2回)
鹿児島県 瀬戸内町	H27.8.23	「キッズイベントin加計呂麻」
岡山県 新見市	H27.9	検討委員会に学識経験者派遣
岡山県 瀬戸内市	H27.10	ワークショップ講師派遣
岡山県 備前市	H27.4 H27.8 H27.12	備前市まち・ひと・しごと創生懇談会委員派遣 世界遺産登録検討専門員派遣 「キッズイベントin備前」
広島県 安芸太田町	H26.11- H27.4	道の駅とごうち好適環境水展示水槽設置・保守支援 包括連携協定締結に伴う連携協議実施中
岡山県 津山市	H27.6	職員研修講師派遣
岡山市中央 卸売市場	H27.9、12 H27.7、10	市民市場大学参加 市民イチバデー支援
岡山県立 総社高校	H27.8 H27.11	学習合宿支援(御津国際交流会館) 3年生・教員58名 2泊3日 学習合宿支援(御津国際交流会館) 2年生・教員46名 1泊2日

## 収益事業

■収益事業部

神戸市東灘区に開設した御影インターナショナルこども園、M-KISS (学童保育事業) 及び御影小規模保育ルームでは、それぞれ特色ある教育・保育プログラムにもとづいて運営を行っています。

倉庫として利用していた旧建物一階の部屋が老朽化していたため、床・壁等の補修を行いました。今後は、園児の教育保育のための多目的な用途に活用して参ります。

全国的に保育士不足が大きな問題になっていますが、本園でも安定的な保育士確保のために、大学訪問や求人活動を続けて参ります。

■御影インターナショナルこども園

設置場所: 神戸市東灘区御影2丁目15-27

園長 中西元子 (8月31日付退職)

西原豊子 (9月1日付就任)

定員: 136名 (平成27年度)

・当該年度の教育保育活動実績

0～1歳児については情緒の安定を第一に考え、保護者との連携を密にし、家庭生活とのバランスを取りながら保育を行いました。10月からは0歳児にも石井式漢字教育を取り入れ、国語教育の礎を養いました。

2歳児においては、前述の保育内容に加え、3歳児からのイマージョンプログラムを見据え、簡単な英語を使った生活指導を行いました。

3歳児からは英語イマージョンプログラムを開始し、専任の担当者がクラスの達成状況に応じて日々作成したプログラムに沿って、英語ネイティブ教員と日本人保育士がペアでクラスを運営しました。

今年度、4歳児が初めてCambridge国際児童英検にチャレンジしました。来年度以降も、4・5歳児が受験し、達成度を確認しながらイメージプログラムを進めて参ります。

また、今年度は、本園の教育保育に対する保護者の満足度を確認するための保護者アンケートを実施しました。概ね好結果でしたが、頂いた意見は今後の教育保育活動に役立てて参ります。

#### ・地域への貢献

月1回程度、園庭開放日を設け、地域の子育て家庭に門戸を広げて参りました。参加した保護者の多くが、入園に興味を持っており、今後も募集活動の一環として継続して参ります。また、子育て講座、食育講演会やミニコンサートなどの催しを行いました。地域の自治会と連携し、老人会との交流も行いました。

また、地域の清掃活動や神社の行事等にも積極的に参加し、地域との交流を深めました。

### ■M-KISS

定 員：64名（小学校1-4年生）

#### ・当該年度の教育活動実績

##### ① 英語イマージョンプログラム

英語ネイティブ教員と日本人アシスタントでのクラス運営により、英語の基礎となる語彙力を習得し、フォニックス、会話、歌などを通してコミュニケーションを中心とした学習を行いました。併せて、英語の読み書きについても学習しました。

##### ② 石井式漢字教育

絵の一部分を具体的な意味や内容を表す漢字と認識して記憶していく石井式漢字教育を通して、記憶力や想像力を養い国語教育の礎を築くことができました。

##### ③ 宿題支援

小学校からの連絡帳を確認し、スタッフが宿題指導にあたりました。

### ■御影小規模保育ルーム

定 員：19名（0歳児～2歳児）

#### ・当該年度の保育活動実績

0-2歳児を受け入れている本園では、個々の発達段階に応じて、健康や安全など日常生活に必要な基本的な習慣や態度を身につけるための保育を行うことができました。また、1歳児からは、石井式漢字教育を取り入れました。

## 国際交流関係

### ■教育交流協定校との交流プログラム

本学園は現在、国際18カ国70校の海外高等教育機関と教育交流協定を締結し、学生、教職員の交換、留学生やインターンシップ生受け入れなど多彩な国際交流プログラムを行っています。

なお、既に四半世紀継続しているアメリカ、ブラジル学生研修団に対して岡山での最終日に岡山理科大学スカイテラスにて「KAKE国際祭」を開催しました。研修団や地域住民の方々、ホストファミリー、学園関係者など500名以上の参加があり、在籍留学生による中国、韓国、マレーシア、ネパール、ベトナム、理大ハラルレストランなどの国際屋台が出店しました。

### ■第五回加計学園杯日本語弁論国際大会

第五回加計学園杯日本語弁論国際大会の地区予選を8～10月に10カ国計14会場にて開催しました。これら予選で選抜された14名の出場者による決勝大会を11月27日(金)に岡山理科大学にて開催しました。

約500名が来場され、ファイナリストは「テーマ：「未来へ伝えたいこと」について熱弁し、最優秀賞には中国四川外国語大学の唐林芳さんが選ばれました。



### ■第六回加計杯日本語弁論大会

本学園の設置校に在籍している留学生による弁論大会の決勝を11月21日（土）に岡山理科大学にて開催しました。中国、韓国、スリランカ、インドネシア、ベトナムなどの国々の留学生が出場し、スピーチを行いました。

### ■海外支局長会議

年に数回海外支局長TV会議を開催し、勉強会・報告会を通じて、海外支局長同士の連携を深め、情報交換を行いました。

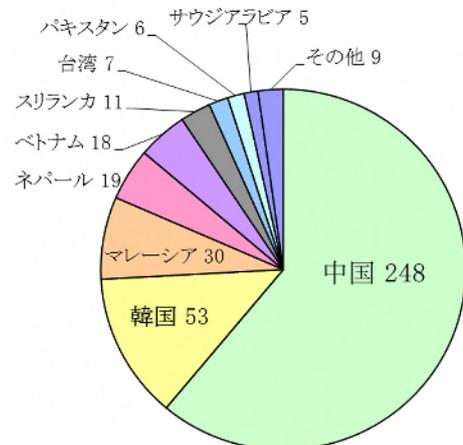
11月26日には平成27年度秋期海外支局長会議を、28日に海外支局長勉強会を開催しました。

### ■教育交流協定校との交流プログラム

国名	計 画	実行
アメリカ	受入：ライト大学仕事体験生2名（岡山理科大学） 受入：フィンドリー大学仕事体験生1名（千葉科学大学）	4～3月
韓国	受入：湖西大学短期交換留学生（単位互換履修生）（岡山理科大2名、倉敷芸術科学大学1名、千葉科学大学1名）	9～3月
台湾	受入：致理技術学院短期交換留学生（科目等履修生）9名（岡山理科大学5名・倉敷芸術科学大学4名）	4～2月
アメリカ	受入：フィンドリー大学学生訪日研修団9名 受入：ライト大学学生訪日研	6.29～ 7.22

	修団11名	
ブラジル	受入：パラナ連邦大学4名、パラナ・カトリカ大学7名訪日研修団	6.29～ 7.22
台湾	受入：致理技術学院学生研修団24名	5.27～ 6.5
中国	受入：江蘇省高校生訪日研修団31名	7.12～ 7.14
中国	受入：江蘇省高校生訪日研修団39名	7.26～ 7.28
韓国	受入：江南スカイ学院訪日文化研修団	7.28～ 8.6
韓国	受入：湖西大学訪日研修団16名	8.3
ブラジル	派遣：パラナ連邦大学・パラナカトリカ大学へ学生研修団3名	8.11～ 9.4
アメリカ	派遣：フィンドリー大学へ学生研修団7名	8.11～ 9.4
アメリカ	派遣：ライト大学へ学生研修団9名	8.13～ 9.7
韓国	派遣：湖西大学へ学生研修団1名	8.22～ 8.31
台湾	派遣：致理技術学院へ学生研修団4名	8.27～ 9.3
韓国	受入：①全南女子商業高校教員研修団	8.27～ 8.30
韓国	受入：②全南女子商業高校生徒研修団	1.19
韓国	受入：木洞高校高校生訪日研修団	1.24～ 1.27

### ■国別留学生内訳（平成27年5月1日現在）



総数：406名

■海外交流協定校（平成28年3月31日）

国名	教育交流協定校	校数
中国	南開大学、北京科技大学、雲南大学、中山大学、河南科技大学、東北師範大学、東北師範大学人文学院、中国管理軟件学院、北京城市学院、北京市実美職業学校、北京市求实職業学校、黒龍江中医薬大学、安徽外国語学院、河南城建学院	14校
	（留学生募集に関する提携校） 内蒙古智力引進外語專修学院、北京平成日本語学校、成都瀨川日本語学校、四川外国語学院国際教育学院、西南交通大学外語学院国際項目部、深圳職業技術学院、明正日本語学校、南京卓越日本語專修学院、無錫運河実験中学校、長沙明照日本語專修学院、吉林动画学院、他	(31校)
韓国	慶一学園、金剛学園（永同大学、亨硯高校）、鶴山学園（東ソウル大学）、金龍学園（徳園女子高校、徳園芸術高校）、桂林学園（正明高校）、清錫学園（清州大学）、純心教育財団（純心高校）、湖西学園（湖西大学）、江原大学、金泉大学、大田保健大学、韓国防災協会、全南女子商業高等学校、木洞高校、礼ーデザイン高等学校	15校
台湾	大華技術学院、明新科技大学、南台科技大学、稲江科技暨管理学院、稲江高級商業職業学校、金甌女子高級中学、致理技術学院、海山高級工業職業学校、治平高級中学、財団法人崇右技術学院	10校
アメリカ	ライト大学、ハワイ大学、フィンドリー大学、シェネンドーア大学、グアム大学、ムーアパークカレッジ	6校
イギリス	サンダーランド大学、オックスフォード大学、ケンブリッジ大学キャベンディッシュ研究所、ダービー大学	4校
スリランカ	ワヤンバ・ロイヤルカレッジ、マリヤデワ・カレッジ、マリヤデワ・パトリカウィッダチャーラヤ、マヒンダ・カレッジ・ゴール	4校
ブラジル	パラナ・カトリカ大学、パラナ連邦大学、バンデイランテス高校	3校
オーストリア	ヨハネス・ケプラー大学、リンツ工科造形芸術大学	2校
シンガポール	ニー・アン・ポリテクニク、シンガポール・ポリテクニク	2校
ベルギー	ブリュッセル自由大学、アントワープ王立美術アカデミー	2校
タイ	泰日工業大学、パトゥムワン・デモンストレーション・スクール	2校
フィリピン	フィリピン国立大学ロスバニョス校、フィリピン日本語文化学院	2校
フランス	リヨンI大学	1校
カナダ	モホーク大学	1校
コスタリカ	コスタリカナショナル大学	1校
オーストラリア	アニマルインダストリーズリソースセンター	1校
コンゴ民主共和国	高等技術大学	1校
マレーシア	マラ工科大学医学部	1校
モンゴール	モンゴル科学アカデミー古生物学研究センター	1校

## 組織

### ■組織

学校教育法等の改正に伴い、平成26年3月に学内諸規程の見直しを行い、各設置校から総長を外し、学園の総長としたことに伴い、法人本部事務局、理事長直轄機関、総長直轄機関についても見直しを行い、平成27年度より新組織の下取り組みました。

また、4月1日付で、加計特別編纂室を新設しました。今後、歴史・系譜の編纂に関する業務を行いました。

### ■加計学園理事・監事・評議員概況

区分	定数	常勤	非常勤	計
理事	9～13	7	3	10
監事	2		2	2
評議員	23～32	28	4	32

(平成27年5月1日現在)

### ■役員について

平成27年4月1日：河野伊一郎理事就任

平成27年12月23日：河野昌晴理事退任

平成28年3月31日：波田善夫理事退任

## 学園の概況

### ■学園の沿革（抜粋）

- 昭和30年4月 加計学園の出発点ともなった広島英数学館を、加計勉が創立
- 昭和36年9月 学校法人加計学園認可、理事長に加計勉就任、岡山電機工業高等学校設置認可
- 昭和37年4月 岡山電機工業高等学校開校（全日制） 初代校長に、神崎栄一郎就任
- 昭和39年1月 岡山理科大学設置認可
- 2月 岡山理科大学設置認可にともない、岡山電機工業高等学校を岡山理科大学附属高等学校と改称
- 4月 岡山理科大学開学（理学部） 初代学長に、加計勉就任
- 昭和42年4月 岡山理科大学附属高等学校第2代校長として、内藤一人就任
- 昭和44年12月 真庭郡川上村に岡山理科大学蒜山研究所、蒜山学舎を開設
- 昭和48年10月 学校法人加計学園の所在地が岡山市の住居表示変更により、岡山市理大町と町名変更
- 昭和49年4月 岡山理科大学大学院理学研究科修士課程を設置
- 岡山理科大学附属高等学校第3代校長として、中尾寿夫就任
- 昭和50年4月 岡山高等建築専門学院設置認可
- 5月 岡山高等建築専門学院開校（建築学科夜間部定時制） 初代校長に、中尾寿夫就任
- 昭和51年4月 岡山高等建築専門学院、専修学校法施行により岡山高等建築専門学校と改称
- 昭和53年4月 岡山理科大学大学院理学研究科に博士課程（後期）を設置
- 昭和55年4月 岡山理科大学第2代学長に、奥田毅就任
- 岡山理科大学附属高等学校第4代校長として、松本卓三就任
- 岡山高等建築専門学校昼間部を増設、第2代校長として、片山誠二就任

- 7月 寄附行為変更により総長制度認可、初代総長に、加計勉就任
- 昭和 59年 4月 岡山理科大学第3代学長に、黒谷寿雄就任
- 昭和 61年 4月 岡山理科大学工学部設置
- 岡山理科大学附属高等学校第5代校長として、三宅寛就任
- 岡山高等建築専門学校を**岡山理科大学専門学校**と改称
- 平成 2年 4月 岡山理科大学第4代学長に、加計勉就任
- 岡山理科大学大学院の理学研究科を改組し、工学研究科を設置
- 平成 4年 1月 岡山理科大学附属高等学校第6代校長として、加計晃太郎就任
- 4月 岡山理科大学附属高等学校第7代校長として、渡辺己巳生就任
- 平成 6年 12月 倉敷芸術科学大学設置認可 初代学長に、谷口澄夫就任
- 平成 7年 4月 **倉敷芸術科学大学**開学
- 平成 9年 4月 岡山理科大学総合情報学部を増設
- 12月 玉野看護福祉総合専門学校設置認可
- 平成 10年 4月 **玉野看護福祉総合専門学校**を開校 初代校長に、金政泰弘就任
- 岡山理科大学附属高等学校第8代校長に、三木輝知就任
- 岡山理科大学専門学校第3代校長に、村上侑就任
- 平成 11年 4月 倉敷芸術科学大学第2代学長に、土井章就任
- 倉敷芸術科学大学大学院開設
- 平成 12年 4月 倉敷芸術科学大学教養学部を国際教養学部に変更
- 岡山理科大学附属高等学校通信制課程普通科を設置
- 平成 13年 1月 学校法人加計学園第2代理事長・総長に、加計晃太郎就任
- 4月 岡山理科大学大学院修士課程に総合情報研究科設置
- 倉敷芸術科学大学大学院芸術研究科に博士（後期）課程設置
- 玉野看護福祉総合専門学校を、**玉野総合医療専門学校**に変更
- 岡山理科大学第5代学長として、山村泰道就任
- 9月 岡山理科大学附属中学校設置認可
- 平成 14年 4月 倉敷芸術科学大学大学院（通信制）設置
- 岡山理科大学附属高等学校第9代校長として、北尾正幸就任
- 岡山理科大学専門学校第4代校長として、逢坂一正就任
- 岡山理科大学附属中学校開校 初代校長として、善木道雄就任
- 平成 15年 4月 倉敷芸術科学大学産業科学技術学部（通信教育課程）、国際教養学部（通信教育課程）を設置
- 11月 千葉科学大学設置認可
- 平成 16年 3月 倉敷芸術科学大学専門学校設置認可
- 4月 岡山理科大学第6代学長に、宮垣嘉也就任
- 倉敷芸術科学大学生命科学部を設置
- 倉敷芸術科学大学国際教養学部募集停止
- 倉敷芸術科学大学国際教養学部（通信教育課程）募集停止
- 千葉科学大学**開学 初代学長に、平野敏右就任
- 倉敷芸術科学大学専門学校**開校 初代校長に、岡本繁通就任
- 平成 17年 4月 倉敷芸術科学大学第3代学長に、添田喬就任
- 岡山理科大学附属高等学校第10代校長に、橋爪道彦就任
- 岡山理科大学附属中学校第2代校長に、新倉正和就任

- 岡山理科大学専門学校第5代校長に、圓堂稔就任  
玉野総合医療専門学校第2代校長に、岡田茂就任
- 平成19年4月 倉敷芸術科学大学専門学校第2代校長に、伊藤敏夫就任
- 平成20年4月 岡山理科大学第7代学長に、波田善夫就任  
千葉科学大学大学院薬科学研究科、危機管理学研究科を設置  
倉敷芸術科学大学専門学校を**倉敷 食と器 専門学校**に名称変更
- 平成21年4月 岡山理科大学専門学校第6代校長に、小林正文就任
- 平成22年3月 倉敷芸術科学大学国際教養学部を廃止
- 平成22年4月 千葉科学大学第2代学長に、赤木靖春就任  
玉野総合医療専門学校第3代校長に、高井研一就任  
倉敷 食と器 専門学校第3代校長に、川上雅之就任  
千葉科学大学大学院薬科学研究科博士課程（後期）、危機管理学研究科博士課程（後期）設置
- 平成23年4月 倉敷 食と器 専門学校第4代校長に、亀井秀人就任  
10月 倉敷芸術科学大学第4代学長に、唐木英明就任
- 平成24年4月 岡山理科大学附属高等学校第11代校長に、宮垣嘉也就任  
岡山理科大学附属中学校第3代校長に、位田隆久就任  
岡山理科大学専門学校第7代校長に、村岡正就任  
岡山理科大学生物地球学部設置  
倉敷芸術科学大学別科に調理師別科、製菓衛生師別科設置  
千葉科学大学大学院薬科学研究科を薬学研究科に名称変更、薬学科（6年制）を基礎とした薬学専攻博士課程（4年制一貫）を設置
- 平成24年7月 千葉科学大学大学院薬学研究科について、薬学科（4年制）を基礎とした薬学専攻修士課程を廃止
- 平成25年3月 倉敷 食と器 専門学校閉校
- 平成26年4月 倉敷芸術科学大学芸術学部デザイン学科をデザイン芸術学科に名称変更  
倉敷芸術科学大学生命科学部生命動物科学科を動物生命科学科に名称変更  
倉敷芸術科学大学芸術学部美術工芸学科、産業科学技術学部観光学科、生命科学部健康医療学科募集停止  
倉敷芸術科学大学別科 調理師別科、製菓衛生師別科募集停止  
千葉科学大学看護学部設置  
認可外保育所 御影インターナショナルこども園 開園  
倉敷芸術科学大学第5代学長に土井章就任
- 5月 加計学園、中国 河南城建学院と教育交流協定締結  
7月 加計学園、中国 国立樹木園と野外における共同研究と教育に関する覚書締結  
10月 岡山理科大学附属高等学校全日制課程教育学科設置認可
- 平成27年3月 倉敷芸術科学大学別科調理師別科、製菓衛生師別科を廃止  
千葉科学大学薬学部動物生命薬科学科を廃止
- 4月 岡山理科大学工学部生体医工学科を生命医療工学科に名称変更  
倉敷芸術科学大学第6代学長に河野伊一郎就任  
岡山理科大学附属高等学校全日制課程教育学科を設置  
岡山理科大学附属高等学校電機情報科募集停止
- 平成27年4月 岡山理科大学附属中学校第4代校長に河村定彦就任  
玉野総合医療専門学校第4代校長に平井義一就任

小規模保育事業御影インターナショナルこども園御影小規模保育ルーム開園  
倉敷芸術科学大学産業科学技術学部 IT 科学科、起業経営学科を廃止

8月 岡山理科大学教育学部初等教育学科、中等教育学科認可

平成 28 年 3 月 岡山理科大学大学院総合情報研究科修士課程生物地球システム専攻募集停止

岡山理科大学総合情報学部建築学科廃止

倉敷芸術科学大学産業科学技術学部 IT 科学科(通信教育課程)廃止

■設置校概況

平成27年5月1日現在  
(単位：人)

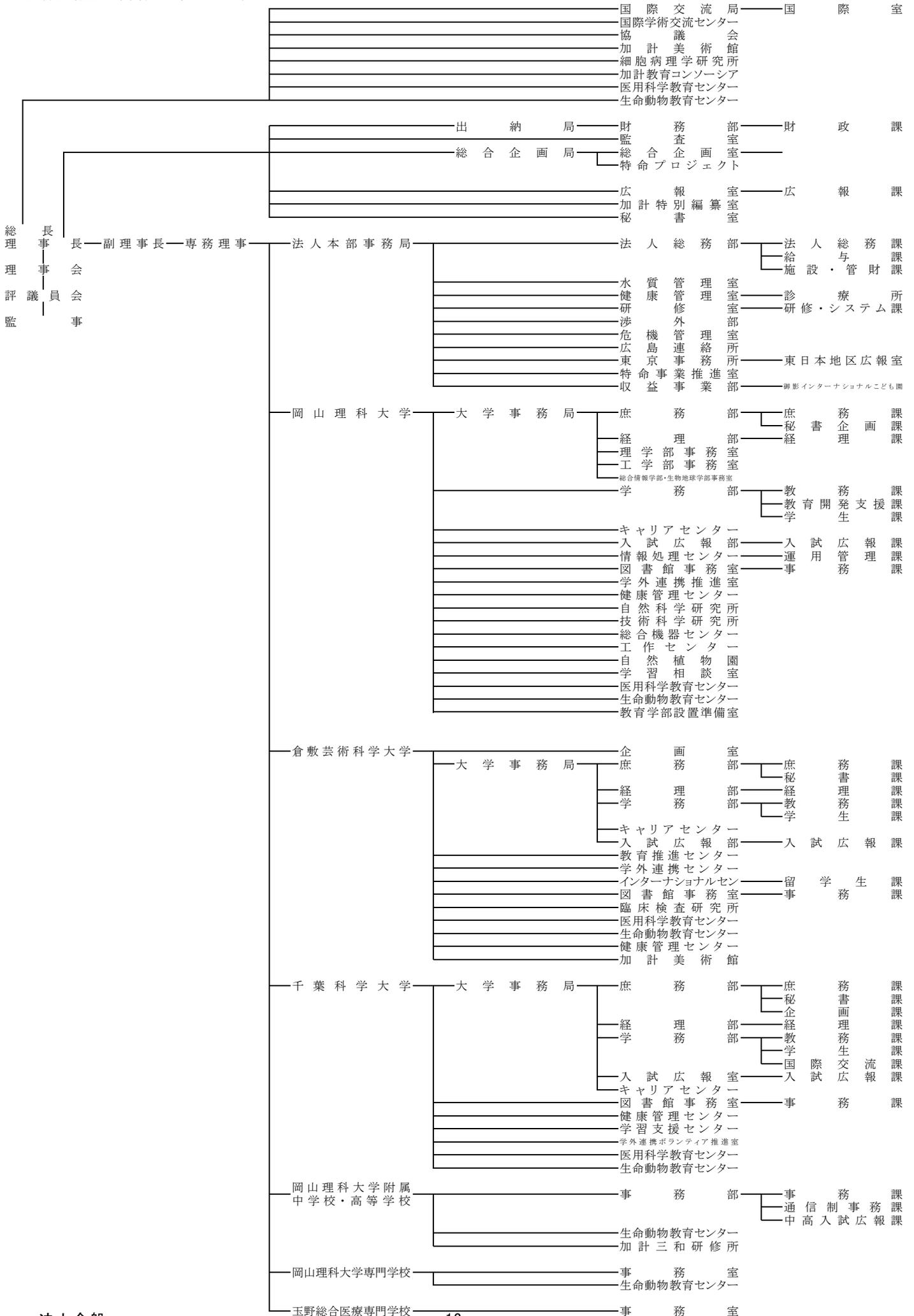
区 分	合計		教員	職員	計
	定員	現員			
岡山理科大学大学 (岡山市北区理大町1-1)	5,554	6,198	269	210	479
大学院	384	214		(本部) 96	
理学研究科	191	106		(理大) 114	
工学研究科	147	73			
総合情報研究科	46	35			
学部	5,170	5,984			
理 学 部	2,080	2,406			
工 学 部	2,010	2,298			
総合情報学部	640	777			
生物地球学部	440	503			
倉敷芸術科学大学 (倉敷市連島町西之浦2640)	2,042	1,468	100	61	161
大学院	126	36			
芸術研究科	52	15			
産業科学技術研究科	44	15			
人間文化研究科	30	6			
学部	1,796	1,422			
芸術学部	424	335			
産業科学技術学部	388	176			
生命科学部	984	911			
大学院 (通信制)	120	9			
芸術研究科 修士課程	20	4			
産業科学技術研究科 修士課程	40	0			
人間文化研究科 修士課程	60	5			
学部(通信教育課程)	0	1			
産業科学技術学部(通信教育課程)	0	1			
千葉科学大学 (千葉県銚子市潮見町3)	2,316	1,951	125	53	178
大学院	66	24			
薬科学研究科	47	9			
危機管理学研究科	19	15			
学部	2,250	1,927			
薬学部	890	753			
危機管理学部	1,200	989			
看護学部	160	185			
岡山理科大学附属高等学校	2,100	1,347	74	22	96
全日制	1,500	1,124			
通信制(1～3年定員:600名)	600	223			
岡山理科大学附属中学校	240	167	18		18
岡山理科大学専門学校	490	380	12	10	22
工業専門課程(建築)	120	121			
商業実務専門課程(映像情報)	0	0			
文化・教養専門課程(動物看護, トリミング, ドッグ, フット)	370	259			
玉野総合医療専門学校	560	459	32	8	40
医療専門課程(保健看護, 理学療法, 作業療法)	480	415			
教育・社会福祉専門課程(介護福祉)	80	44			
合 計	13,302	11,970	630	364	994

※別科、専攻科等除く

学校法人 加計学園 法人本部	収容定員	在園者数		こども園 教職員	
収益事業 (御影インターナショナルこども園)	136	52		(5)	

( )は本部職員内数

■事務組織図（平成27年5月1日）



## 財務関係

### ■資金収支計算書

(平成27年4月1日～平成28年3月31日)

収入の部 (単位：円)

科 目	金 額
学生生徒等納付金収入	15,840,768,240
手数料収入	288,489,636
寄付金収入	76,095,114
補助金収入	1,799,470,425
資産運用収入	400,000,000
付帯事業・収益事業収入	159,598,496
受取利息・配当金収入	64,701,570
雑収入	1,160,952,572
借入金等収入	3,080,820,000
前受金収入	2,242,292,100
その他の収入	1,957,268,765
資金収支調整勘定	△ 3,481,198,948
前年度繰越支払資金	19,446,267,899
計	43,035,525,869

支出の部 (単位：円)

科 目	金 額
人件費支出	11,931,187,329
教育研究経費支出	3,768,225,496
管理経費支出	1,326,455,982
借入金等利息支出	92,731,915
借入金等返済支出	1,086,535,000
施設関係支出	4,745,902,398
設備関係支出	952,719,967
資産運用支出	1,131,518,200
その他の支出	1,204,582,517
資金支出調整勘定	△ 2,605,344,959
次年度繰越支払資金	19,401,012,024
計	43,035,525,869

### ■事業活動収支計算書

(平成27年4月1日～平成28年3月31日)

事業活動収支

事業活動収入の部 (単位：円)

		科 目	金 額
教育活動収入	収入	学生生徒等納付金	15,840,768,240
		経常費等補助金	1,798,395,425
		その他収入	1,665,931,844
	計		19,305,095,509
	支出	人件費	11,670,525,264
教育研究経費		5,346,699,873	
管理経費		1,737,774,124	
その他支出		2,563,742	
計		18,757,563,003	
教育活動収支差額		547,532,506	
教育活動外	収入	受取利息等	64,701,570
	支出	借入金利息等	92,731,915
	教育活動外収支差額		△ 28,030,345
経常収支差額		519,502,161	
特別	収入	資産売却差額等	36,755,194
	支出	資産処分差額等	116,571,290
特別収支差額		△ 79,816,096	

基本金組入前収支差額	439,686,065
基本金組入額合計	△ 479,019,297
当年度収支差額	△ 39,333,232
前年度繰越収支差額	△ 14,261,548,266
基本金取崩額	357,740,375
翌年度繰越収支差額	△ 13,943,141,123

■貸借対照表（平成28年3月31日）

資産の部 (単位：円)

科 目	金 額
固定資産	65,743,590,108
有形固定資産	59,638,911,646
特定資産	4,248,805,052
その他の固定資産	1,855,873,410
流動資産	21,483,018,261
資産の部合計	87,226,608,369

負債の部 (単位：円)

科 目	金 額
固定負債	15,730,704,661
流動負債	5,292,094,432
負債の部合計	21,022,799,093

純資産の部 (単位：円)

科 目	金 額
基本金	80,146,950,399
繰越収支差額	△ 13,943,141,123
純資産の部合計	66,203,809,276
科 目	金 額
負債及び純資産の部合計	87,226,608,369

■財産目録（平成28年3月31日）

(単位：円)

科 目	金 額
<b>一 資産額</b>	
(一) 基本財産	64,380,062,874
1. 土地	15,846,276,024
借地権	388,140,000
2. 建物	32,696,191,372
(1)校舎	27,431,548,283
(2)図書館	355,488,119
(3)体育館	2,143,229,429
(4)寄宿舎	339,866,075
(5)倉庫	18,944,068
(6)その他	2,407,115,398
3. 建設仮勘定	86,525,970
4. 構築物	990,447,520
5. 図書	6,866,988,325
6. 教具・校具・備品	3,124,189,878
7. ソフトウェア	104,206,176
8. 車両運搬具	28,292,557
9. 特定資産	4,248,805,052
(二) 運用財産	22,846,545,495
1. 預金、現金	19,401,012,024
2. 出資金	169,859,400
3. 有価証券	893,681,477
4. 未収金	1,053,707,605
5. 仮払金	11,279,971
6. 差入保証金	100,271,010
7. 前払金	121,273,445
8. 貯蔵品	2,063,739
9. 収益事業元入金	720,396,824
10. 長期貸付金	373,000,000
合 計	87,226,608,369
<b>二 負債額</b>	
1. 固定負債	15,730,704,661
(1)長期借入金	10,382,407,000
(2)学校債	1,880,000
(3)長期未払金	1,539,869,270
(4)退職給与引当金	3,806,548,391
2. 流動負債	5,292,094,432
(1)短期借入金	1,521,640,000
(2)学校債	1,420,000
(3)未払金	944,382,827
(4)前受金	2,242,292,100
(5)預り金	576,798,550
(6)仮受金	5,560,955
合 計	21,022,799,093

## ■財務比率

事業活動収支計算書（平成26年度までは消費収支計算書）及び貸借対照表に基づく財務比率について、下表で本学の経年比率を示した。

区 分		23年度	24年度	25年度	26年度	区 分		27年度	
分類	比 率					算式（×100）	分類		比 率
貸借対照表	消費収支差額構成比率	$\frac{\text{消費収支差額}}{\text{総資金}}$	△15.9%	△17.0%	△18.3%	△17.1%	繰越収支差額構成比率	$\frac{\text{繰越収支差額}}{\text{総負債＋純資産}}$	△16.0%
	基本金比率	$\frac{\text{基本金}}{\text{基本金要組入額}}$	88.5%	89.8%	89.8%	88.7%	基本金比率	$\frac{\text{基本金}}{\text{基本金要組入額}}$	85.9%
	固定比率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{自己資金}}$	92.6%	89.7%	91.0%	94.1%	固定比率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{純資産}}$	99.3%
	固定長期適合率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{自己資金＋固定負債}}$	76.9%	75.6%	77.3%	78.2%	固定長期適合率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{純資産＋固定負債}}$	80.2%
	流動比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}}$	491.0%	542.8%	473.7%	528.3%	流動比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}}$	405.9%
	前受金保有率	$\frac{\text{現金預金}}{\text{前受金}}$	907.1%	917.2%	830.3%	803.7%	前受金保有率	$\frac{\text{現金預金}}{\text{前受金}}$	865.2%
	総負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{総資産}}$	21.6%	20.1%	19.9%	21.0%	総負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{総資産}}$	24.1%
	負債率	$\frac{\text{総負債－前受金}}{\text{総資産}}$	18.8%	17.3%	16.9%	18.1%	負債率	$\frac{\text{総負債－前受金}}{\text{総資産}}$	21.3%
	基本金実質組入率	$\frac{\text{自己資金}}{\text{基本金要組入額}}$	73.6%	74.0%	73.1%	72.9%	基本金実質組入率	$\frac{\text{純資産}}{\text{基本金要組入額}}$	70.9%
消費費収支計算書	人件費比率	$\frac{\text{人件費}}{\text{帰属収入}}$	71.4%	58.2%	59.7%	57.8%	人件費比率	$\frac{\text{人件費}}{\text{経常収入}}$	60.3%
	教育研究経費比率	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{帰属収入}}$	30.4%	28.8%	29.3%	27.8%	教育研究経費構成比率	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{事業活動支出}}$	28.2%
	管理経費比率	$\frac{\text{管理経費}}{\text{帰属収入}}$	10.0%	8.6%	9.5%	10.8%	管理経費比率	$\frac{\text{管理経費}}{\text{経常収入}}$	9.0%
	消費支出比率	$\frac{\text{消費支出}}{\text{帰属収入}}$	113.3%	96.6%	100.6%	97.5%	事業活動支出比率	$\frac{\text{事業活動支出}}{\text{事業活動収入}}$	97.7%
	経常経費依存率	$\frac{\text{消費支出}}{\text{学生生徒等納付金}}$	145.5%	120.6%	124.8%	123.4%	経常経費依存率	$\frac{\text{事業活動支出}}{\text{学生生徒等納付金}}$	119.7%
	学生生徒等納付金比率	$\frac{\text{学生生徒等納付金}}{\text{帰属収入}}$	77.9%	80.1%	80.6%	79.0%	学生生徒等納付金比率	$\frac{\text{学生生徒等納付金}}{\text{経常収入}}$	81.8%
	寄付金比率	$\frac{\text{寄付金}}{\text{帰属収入}}$	1.8%	0.4%	0.5%	2.4%	寄付金比率	$\frac{\text{寄付金}}{\text{事業活動収入}}$	0.6%
	補助金比率	$\frac{\text{補助金}}{\text{帰属収入}}$	14.5%	13.5%	11.6%	12.1%	補助金比率	$\frac{\text{補助金}}{\text{事業活動収入}}$	9.3%
	基本金組入率	$\frac{\text{基本金組入額}}{\text{帰属収入}}$	6.2%	7.4%	4.4%	0.7%	基本金組入率	$\frac{\text{基本金組入額}}{\text{事業活動収入}}$	2.5%

■国庫補助金等

設置校名	①	②	③	(単位：千円)		
	経常費補助金	大型機器補助金	G P 等選定事業	その他国庫補助金	地方公共団体補助金	合計
岡山理科大学	703,160		9,814	1,670	1,462	716,106
倉敷芸術科学大学	289,961		18,273		133	308,367
千葉科学大学	344,762		7,103	616	190	352,671
岡山理科大学附属高等学校				4,829	328,498	333,327
岡山理科大学附属中学校					62,989	62,989
岡山理科大学専門学校					971	971
玉野総合医療専門学校					25,039	25,039
合計	1,337,883	0	35,190	7,115	419,282	1,799,470

①経常費補助金・・・私立大学等経常費補助金（一般補助、特別補助）

②大型機器補助金・・・私立学校施設整備費補助金（私立学校教育研究装置等施設整備費（私立大学・大学院等教育研究装置施設整備費））及び私立大学等研究設備整備費補助金（私立大学等研究設備等整備費）

③G P 等選定事業・・・大学改革推進等補助金（戦略G P、教育G P等）、科学技術総合推進費補助金等、文部科学省が選定し、支援を行う補助事業

■受託研究・共同研究・科学研究費補助金

設置校等名	受託研究	共同研究	科学研究費補助金	
			件数	補助金額
岡山理科大学	30 件	38 件	50 件	83,030 千円
理学部	10	9	23	43,680
工学部	10	19	12	16,900
総合情報学部	0	1	8	10,660
生物地球学部	7	3	6	10,790
附属施設	3	6	0	0
その他	0	0	1	1,000
倉敷芸術科学大学	6	7	6	38,792
芸術学部	2	2	1	5,771
産業科学技術学部	1	3	1	11,830
生命科学部	3	2	4	21,191
千葉科学大学	8	6	25	21,982
薬学部	1	4	10	10,235
危機管理学部	7	2	8	5,544
看護学部	0	0	7	6,203
合計	44	51	81	143,804

# 平成27年度 事業報告

## 岡山理科大学

理論研究と応用技術を密接に関連させることにより、創造能力の開発を目指す実践の教育を理念とする。



岡山理科大学は創立50周年を迎え、次なる50年への道を歩み始めている。中心的な50周年記念事業はA1号館（新1号館）の建設であり、本年度末には地下1階、地上11階の建物が竣工

する。A1号館は教育研究環境、学習環境、図書館機能などの向上に大きく貢献し、建築工事、研究室の移設準備、構想中の新学部設置業務などが本年度の事業のひとつである。

発展の中核を担ってきた第二世代教員の大量退職を迎え、教育研究体制を変革することができるこの5年間に次のような5カ年の中期目標を掲げた。

**1. 方針：**地方都市に位置する岡山理科大学としては、次なる50年を輝いて迎えるために「特色ある研究」とそれに立脚した「充実した教育」を実施し、広い視野を持つ自主・自律の学生を養成する。

**2. 研究環境の整備：**研究環境の整備を重点課題として位置づける。これとともに大学院生、学部学生などの研究指向・能力を高める体制を構築する。

**3. 教育の充実：**科学者・技術者としての教育と同時に社会人としての人格教育を重視し、グローバル化を視野に入れ、カリキュラム構成などの改善を行う。

**4. 自己点検システムの実施：**構築したPDCAサイクルを稼働させ、自己点検を実施する。

**5. 社会貢献：**地域連携を積極的に行い、研究成果および優秀な人材の供給によって広く社会に貢献する。

岡山理科大学 学長 波田善夫

### 教育の充実

#### ■大学教育改革

社会のニーズに応じた人材を輩出できるよう、平成26年度に設置した大学教育改革委員会を中心に、以下の教育改革を進めました。

- (1) 平成28年度からの4学期制導入に向け、2学期制と併用のアカデミックカレンダーや時間割の調整、ギャップイヤーの活用等を実施しました。
- (2) グローバル化の方針に従い、外国語科目の質および量の充実に向けたカリキュラムの再編を実施し、海外留学促進に向けた仕組み作りをするとともに、その担当部署であるグローバル教育センターを平成28年度に設置することになりました。
- (3) 平成28年度からの教養科目の充実に向け教養教育科目をグループ化するとともに、時代のニーズに応じた魅力ある講義科目を新設し、それらの科目をバランスよく学生が受講するための仕組みを作りました。
- (4) 初年次教育、在学中の職業・社会体験、卒業後の進路の実現に向けた実践的教育を学生が受講できるよう、全学的なフレッシュマンセミナーやインターンシップを含めたキャリア教育科目についてキャリア形成委員会を中心に検討しました。
- (5) 本学の特徴である理数系科目を整備し、入門科目から、教養基礎科目、専門基礎科目、専門科目への調整を行いました。

これまでの「現代人の科学」に加えて「身近な物理学・化学・生物学・地学」の科目を新設し、入門科目と合わせて多様な学生の習熟度に応じた理数系科目が受講できるよう調整しました。

- (6) 上記の改革により整備された科目群を学生が効率的に受講できるようなカリキュラムデザインを検討しました。

#### ■ポートフォリオシステムの構築

平成28年度のポートフォリオシステム導入に向けてワーキンググループを設置し、構築準備を進めました。

#### ■FD推進

授業アンケートや学生FDを通して授業改善を進めました。シラバスの第三者チェックを進め、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーとの整合性のあるカリキュラム改善を進めました。

#### ■学科の特色ある取組

「生命医療工学科（再生医療コース）」「生物地球学科（恐竜・古生物コース）」等に代表される社会のニーズに合わせた教育研究分野の拡充に取り組まれました。「早期研究室配置プログラム」「習熟度別クラス編成」「JABEE 認定プログラム」「国家試験対策」「フィールドワーク重視のカリキュラム」「学会・コンテスト等への積極的参加」等積極的に特色ある教育に取り組まれました。

#### ■設置、募集停止、改組

平成27年度に工学部旧生体医工学科は生命医療工学科に名称変更しました。また、理学部応用物理学物理科学専攻と医用科学専攻の入学定員を変更しました。

物理科学専攻 30名→40名

医用科学専攻 40名→30名

平成28年度新設等案件として、文部科学省に大学院生物地球科学研究科の設置届出が受理され、教育学部の設置も認可されました。学生の受入に向けた準備を始めています。名称変更案件として、応用

物理学科の医用科学専攻を臨床工学専攻に変更します。

## 研究の充実

#### ■大学院の充実

学部学生の大学院科目受講制度の導入を検討し、進学説明会の充実などを通じて、大学院への進学率の上昇を目指しました。また、より多くの社会人を受け入れるための方策についても検討を進めました。

#### ■文部科学省等補助金事業等

##### 1. 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業

##### (1) 鉱物の物理化学特性から読み取る地球、惑星の環境変遷史

平成23年度理学部が申請し、採択されました。補助期間5年計画の最終年度の事業を行い、研究成果報告書を提出しました。地球、惑星の過去の環境変動を調べることは、その変動の中をどのように人類や生物が生き抜き、進化してきたか、という我々の過去を知ることです。このことは、将来における地球の環境変化を予測し、いかに対応していくべきであるかを知るためにも重要な課題です。

テーマ1 : 新しい物理的・化学的測定手法による地球環境変動評価

テーマ2 : 鉱物微小領域に記録された年代情報の解明、年代測定手法の高精度高精度化、およびその応用

テーマ3 : 新たなルミネッセンス手法による隕石の宇宙鉱物学的研究及び衝撃変成過程の定量評価

研究者数 : 10名

代表者 : 理学部応用物理学 教授 豊田新  
事業期間 : 平成23年度～平成27年度(5年間)

##### (2) QOL向上を目指す支援技術のイノベーション研究拠点の形成

平成24年度に工学研究科が申請し、採択されました。補助期間5年計画の4年目の事業を行いました。

生活支援機器や環境改善によりQOL (Quality of life 生活の質)を向上させるための支援技術に関する2つのテーマに取り組み、ライフ・イノベーションとグリーン・イノベーションの両者を駆使する革新的な研究開発の拠点を形成します。

テーマ1：生活支援機器によるQOLの向上

テーマ2：環境改善によるQOLの向上

研究者：18名

代表者：工学研究科 教授 山田訓

事業期間：平成24年度～平成28年度(5年間)

### (3) 申請計画

平成27年度は私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「中国四国地方の再生医療を支える細胞理工学研究拠点の形成」と「革新的光変換物質の創製と応用に向けた研究拠点形成」の2件を申請しましたが不採択でした。

## 2. 大学教育再生加速プログラム

(インターンシップ等を通じた教育強化)

取組名称：中国・四国圏域での産官学協働によるインターンシップ等の推進

平成24年度～平成26年度に産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業【テーマA】の「産業界との連携による中国・四国地域人材育成事業」で行ってきた連携をもとに、【テーマB】として平成26年度からPBLやインターンシップ等の地域密着型産官学連携教育を推進することで次世代を担う人材育成の活性化を目指した取り組みを実施していましたが、平成27年度より事業名が変更され、「大学教育再生加速プログラム」となりました。事業期間2年計画の最終年度の取組を行いました。

取組担当者：工学部 教授 笠 展幸

事業期間：平成26年度～平成27年度(2年間)

## 3. 外部資金の獲得

科学研究費助成事業等の競争的研究費、共同研究や受託研究等の外部研究資金の獲得を推進しました。外部資金に関する情報収集に努め、説明会等を開催し、外部資金の獲得を目指しました。

## 4. 知的財産

### (1) 発明の知的財産化

研究者の発明を知的財産化することを目指し、

職務発明委員会等を通じて職務発明の発掘に努めました。

①4月23日 1件 ②5月29日 1件

③6月13日 2件 ④9月14日 3件

⑤11月2日 2件 ⑥11月4日 1件

⑦11月13日 1件 ⑧12月11日 1件

⑨3月29日 2件

### (2) 特許セミナー

特許セミナーを年数回開催し、研究者及び学生が研究した成果の知的財産化を推進しました。

第1回 9月25日

第2回 10月23日

第3回 11月27日

### (3) 外部機関との連携

中国銀行等6銀行が行っている「TSUBASA(翼)プロジェクト」と連携しました。これは、大学・企業等の保有する特許情報を企業特許レポートとして共有し、地域企業の新規事業や事業拡大を支援するものです。

## 5. 平成27年度私立大学等教育研究活性化設備整備事業

教育の質的転換に係る設備の補助を行う「私立大学等教育研究活性化設備整備事業」に申請し、不採択となりました。

タイプ名称：タイプ1「教育の質的転換」

申請設備：ポートフォリオ支援システム 一式

取組担当者：学務部 次長 上嶋 明

## 学生支援

### ■障がい学生支援

障がい学生への修学支援体制を充実させるために支援室を平成28年度に新設し、関係部署と連携を図りながら、障がい学生等一人ひとりに合わせた支援ができるよう、準備を進めました。

### ■生活支援

学生が課外活動等の大学生活を通して、社会人として自立していくための行動力を身に付けられるよう、一人ひとりの学生ニーズに応じた支援をしまし

た。また、奨学金等の情報提供を通して、経済的な事情により修学困難な学生をサポートしました。

## ■進路支援

### 1. 就職進路ガイダンス・各種セミナー

就職ガイダンスを3年次・修士1年次生に6回実施、4年次・修士2年次生に1回実施、計7回実施しました。また、マナーセミナー、メイクアップセミナー、業界セミナー、グループディスカッション、SPI、面接対策等各種セミナーを時期に応じて開催します。また、1年、2年次生の低年次向けガイダンスを年次ごとに数回行い、3年次生対象ガイダンスへスムーズに移行できるようにしました。

### 2. 就職筆記試験対策講座・公務員試験対策講座

就職筆記試験対策講座を3年次生対象に15回実施しました。また、2・3年次生を対象に公務員試験対策講座及び本学独自の公務員講座を毎月実施しました。

### 3. 学内会社説明会

学生に様々な企業や業界の研究をさせるため、年間約100社の会社の人事担当者を招き、学内会社説明会を随時開催しました。この他に岡山県と合同で県内企業の学内説明会も開催しました。

### 4. 合同企業説明会

学生が企業の採用担当者と面談する合同企業説明会を5月と3月に開催しました。この合同企業説明会には本学学生のために全国の企業の採用担当者が出席しました。

### 5. 就職懇談会

企業人事担当者と教職員との情報交換の場として、就職懇談会を岡山・東京・大阪・広島の各会場で開催しました。

### 6. 就職支援マガジンの発行

進路や就職に対する、意識の充実・向上のため、就職支援マガジン「ME (MAGAZINE FOR EMPLOYMENT)」シリーズ、v o l . 0 ~ 4

を発行しました。

### 7. 就職活動の時期変更の対応

ガイダンスや3月解禁直後の合同説明会に無料バスを出す等学生に十分対応できるように指導しました。

### 8. キャリア形成委員会

就職委員会をキャリア形成委員会に改め、インターンシップ及びキャリア教育について議論し実践しました。

## ■留学生支援

日本語や日本文化を学び、日本の習慣に慣れるよう生活面の支援をしました。また、東南アジアや中東出身の留学生が増えつつある中で、ハラル認証の食堂を運営するなど、福利厚生面でのサポートを整えました。

## ■その他

### ・学生満足度の向上

「授業アンケート」、「学生生活アンケート」を通じて学生の意見に耳を傾け、学生サービスの改善、向上や教育環境の充実に努めました。

### ・留年者対応

春学期末と秋学期末の成績不振者を対象に修学相談期間を設け、各チューターがこれら学生に対して面談を行いました。秋学期のはじめには学生と保護者に対し「教育進路懇談会」を本学と地方に会場を分けて実施し、秋学期末には1年次生とその保護者を対象に「修学相談会」を本学で実施しました。

### ・ハラスメント対応

時代の変化は人間関係のあり方まで変化し、近年、ゼミ指導は複雑で難しくなっています。全般的にハラスメント防止に向けた啓発を行い、特に新採用教員には、ハラスメント体制・予防等の講習会を開催し、新入生にはオリエンテーションでハラスメント体制等の説明をしました。

## 社会連携・社会貢献

### ■行政機関との協定

地域貢献及び地域活性化、教育研究を目的として、要望に応じて協定等を締結しました。

6月28日付で岡山県生涯学習センターと連携協力に関する協定を締結しました。

### ■公開講座

岡山県からの委託による生涯学習大学講座(現代的課題を学ぶコース)を開講しました。

(8月～9月実施)

### ■図書館開放

地域に開かれた大学図書館として、調査・研究または生涯学習などを目的とした利用を希望される地域住民の方に開放しました。また、岡山県内の公共図書館と連携して公共図書館への資料の無料貸出を実施しました。

### ■地域活動への参画、国際交流への参画

#### 1. 産業界との交流の活発化

以下に挙げる地域産業界との交流行事に参加し、自治体や地元企業との連携や交流を深めます。

- (1) 岡山県主催の「産学官連携交流会」等  
【10月14日・3月22日】
- (2) 岡山市(岡山工業会等)県内市町村のビジネス交流会  
【5月29日・1月25日】
- (3) ㈱日本政策金融公庫の交流会  
【10月5日・2月1日】
- (4) おかやま信用金庫等の金融機関、支援機関主催のしんきん合同ビジネス交流会 【9月9日】
- (5) トマト銀行をはじめ協定を締結した団体等との交流  
【11月12日】
- (6) 技術振興団体(岡山県産業振興財団、山陽技術振興会、SEO等)が主催する交流会に多数参加しました。
- (7) 各種技術交流会  
さらに、本学の広報を兼ねて、官公庁や産業界

からの相談、見学依頼を受け入れました。

#### 2. 研究成果の社会への発表について

今年で15回目を迎える「OUSフォーラム2015」を11月に岡山市内で開催しました。著名な講師を招聘し、講演会や本学研究者の80件のシーズ発表等を行いました。その他に東京等で開催される研究発表会で研究シーズの公開を行いました。

- (1) 「OUSフォーラム2015の開催」  
(11月20日:岡山)
- (2) JST科学技術振興機構「新技術説明会」での発表  
(11月5日:東京)
- (3) 「岡山リサーチパーク研究・展示発表会」  
(3月18日:岡山)

#### 3. 平成27年度大学教育再生戦略推進費「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」

岡山県立大学が代表校となる取り組みに参加校として参画し、採択されました。

事業名: 地域で学び地域で未来を拓く‘生き活きおかやま’人材育成事業

事業期間: 平成27年度～平成31年度(5年間)

#### 4. 大学間の交流

平成23年度に終了したGP事業「岡山オルガノン」の構築に関する事業を、岡山県内16大学で構成する大学コンソーシアム岡山が継承しています。

本学は加盟校として大学教育事業部、社会人教育事業部、産学官連携事業部を柱とした、大学連携による相互協力、学生交流やボランティア活動など、地域社会における産学官の協働推進を通じて、地域活性化につながる高等教育構築事業の充実と発展を目指します。

8月6日には、地域社会の発展のため、教育・文化の振興や人材育成、福祉の向上等を取組むことを目的として、岡山県と包括連携協定を締結しました。

#### 5. 外部団体の委員等として協力

岡山県、および地方公共団体等の委員会等に委員として参画する予定です。各委員会を通じて、産業界や官公庁への情報提供や連携を深め、社会貢献に

努めました。

## 6. 地域と国際交流

(1) アメリカ人職員が地域保育園に出向き、幼児教育に新鮮な英語教育を行いました。また、本学を幹事校として、加計グループ5大学に在籍する留学生による弁論大会を主体とする第6回インターナショナルフェスティバルを開催しました。

(2) マレーシアの国際協力推進で外務大臣表彰  
日本マレーシア国際工学院（日本式「工学教育を行う学術機関」）に本学を始め京大・阪大・九大・東工大等20数大学がコンソーシアムを組み協力したことが評価され外務大臣表彰を受けました。

### ■ボランティア活動

2011年3月11日の東日本大震災による被災地に対して、岡山県経済同友会と大学コンソーシアム岡山が連携して過去4回にわたり復興支援ボランティアが実施されてきました。平成27年度においても夏休みを利用したボランティア活動の参加者募集を行い、2015年8月21日から25日迄6名の本学学生が参加しました。

## 教育研究環境

### ■施設の充実

教育研究環境の改善を図るため、A1号館を建設しました。A1号館は、面積約27,000平方メートル、地下1階地上11階建の耐震対策を強化した校舎です。

### ■キャンパス緑化

キャンパス内で自然観察等の教育研究活動ができることは、本学の大きな特色です。この恵まれた環境を維持しながら、キャンパスの緑地等の美化を進めました。

## 学生の受入

### ■学生の受入方針

広報においては、データに基づいた広報活動、受験生対話、大学広報に注力しました。特に大学広報においては「SCIENCEFUL!」というメッセージを発信しました。

### ■入試方法等

厳正入試と危機管理、親切な対応、教育とのリンクを図りながら実施しました。2016年度入試より、教育学部新設に備え文系用入試科目を追加しました。ネット出願導入拡大により、さらに新たな受験者層の発掘をできるように充実しました。

### ■オープンキャンパス

受験生が進路先として適切かを判断するためのオープンキャンパスのほかに、科学の面白さを紹介するサイエンスレクチャーや、一般の方を対象とした公開講座を展開しました。

## 内部質保証

### ■自己点検

本学は昨年度から各組織別評価委員会を設置し、組織別の自己点検・評価を実施しています。PDC Aサイクルの確立に向けて、各組織が相互に連携しながら、自己点検活動を推進しました。また、教員データベースの新システム稼働に併せて、今年度から教員を対象に、自己点検シートを用いた自己点検活動を開始し、教員の資質向上を図りました。職員については、職員の資質向上を目的とした「進化する自己点検・勤務考課」を継続実施しました。

### ■学外者の意見の反映

今年度も大学評価委員会において、産・学・官から外部委員を迎え、自己点検・評価に関する審議の客観性、妥当性、透明性を高めるように努めました。

## ■教員データベースの充実

教員データベースは、本学に所属する教員の教育研究業績等を広く社会に公開することを目的としています。今年度は、教員自己点検制度に対応するよう、機能面の拡充にも努めました。

## その他の取組等

### ■創立50周年事業

平成26年度創立50周年を迎え、平成27年度も記念事業を継続して実施しました。

1. 新棟の建設 平成28年3月に完成しました。
2. 募金事業 50周年記念事業募金を継続して募集しました。
3. 記念事業 教職員や学生が企画する記念事業を継続して行いました。

### ■正課外活動の支援

クラブ活動の全国レベルの活躍およびTOEIC等で優秀な成績を収めた学生に学長表彰等の制度を活用しました。学生が自ら構想・設計・製作した車両により、ものづくりの総合力を競う全日本学生フォーミュラ大会の参加を支援しました

### ■入学定員増の申請

文部科学省からの入学定員超過に対する定員規模の厳格化を受け、各学部・学科において定員増を検討し、定員確保の見通しが付く学科について収容定員増の認可申請を行いました。

## 人事・組織

今年度は、現学長の最終任期となり、理事会にて次期学長を決定しました。また、学長を中心に次期執行部の人事構想をまとめました。

また、平成28年度に実施する大学組織の大幅な改編に向けて、準備・検討を行いました。

## 主な行事

4月3日	入学宣誓式
4月4日 ～ 7日	新入生オリエンテーション
4月8日	在学生オリエンテーション
4月25日	就職進路懇談会
5月9日 ～ 10日	皐月祭
5月26日	合同企業説明会
6月14日	オープンキャンパス
7月3日	七夕エコナイト
7月21日 ～ 31日	春学期定期試験
8月1日 ～ 2日	オープンキャンパス
9月10日	春学期学位記授与式 秋学期入学宣誓式
9月11日	秋学期オリエンテーション
9月13日	教育・進路懇談会（本学会場）
9月19日 ～ 20日	教育・進路懇談会（地方会場）
9月23日	オープンキャンパス
10月4日	AO入試・帰国生徒入試
11月3日	特別推薦入試、専門学科・総合 学科特別推薦入試Ⅱ期、教職特 別課程前期入試
11月14日 ～ 15日	推薦入試A方式
11月20日	OUSフォーラム
11月21日 ～ 23日	半田山祭（大学祭）
12月13日	推薦入試K方式
1月16日 ～ 17日	大学入試センター試験
1月22日 ～2月6日	秋学期定期試験 (1/23～24, 1/29～2/1を除く)

1月30日 ～2月1日	一般入試前期S A・S A B方式
2月19日	一般入試S B・B 1方式
3月20日	学位記授与式
3月22日	一般入試後期

## 学生・教職員数

### ■在籍学生数

(平成27年5月1日現在)

研究科・学部・学科名		入学定員	入学者数		収容定員	在学者数			
			留学生	社会人		留学生	社会人	社会人	
大 学 院	理学研究科（博士）	13	1		39	9			
	理学研究科（修士）	76	49		152	97			
	工学研究科（博士）	5	0		15	5	1	1	
	工学研究科（修士）	66	29	2	132	68	8		
	総合情報研究科（博士）	2	1		6	6		2	
	総合情報研究科（修士）	20	14		40	29	2		
	大学院 計	182	94	2	0	384	214	11	3
学 部	理 学 部	応用数学科	95	116		380	462	1	
		化学科	70	67		280	335		
		応用物理学科	70	68		280	275		
		基礎理学科	75	87		300	344		
		生物化学科	85	98		340	400		
		臨床生命科学科	85	99	1	340	405	1	
		動物学科	40	49		160	185		
	計	520	584	1	0	2,080	2,406	2	0
	工 学 部	バイオ・応用化学科	75	96	2	300	353	3	
		機械システム工学科	85	87	4	340	394	10	
		電気電子システム学科	70	84	3	280	324	14	
		情報工学科	85	105	1	340	430	5	
		知能機械工学科	55	60	2	220	226	24	
		生命医療工学科（※）	60	66		240	232	19	
建築学科		70	82	5	290	339	26		
計	500	580	17	0	2,010	2,298	101	0	
総 合 情 報 学 部	情報科学科	80	92	2	320	384	6		
	生物地球システム学科 (募集停止)		—	—	0	21			
	社会情報学科	80	97	4	320	370	13		
	建築学科 (募集停止)		—	—	—	2			
計	160	189	6	0	640	777	19	0	
生 物 地 球 学 部	生物地球学科	120	140		440	503	1	1	
	計	120	140	0	0	440	503	1	1
学 部 計		1,300	1,493	24	0	5,170	5,984	123	1
<b>総 合 計</b>		<b>1,482</b>	<b>1,587</b>	<b>26</b>	<b>0</b>	<b>5,554</b>	<b>6,198</b>	<b>134</b>	<b>4</b>
理学部理学専攻科		30	0			30	0		
教職特別課程		50	14			50	14		
留学生別科		60	17	17		60	17	17	

※生体医工学科より平成27年4月1日に名称変更

(単位：人)

## ■卒業生数等一覧

(平成27年度)

区分		修了者・卒業者	満期退学	就職希望者 A	就職者 B	就職率 B/A	進学者	退学者・除籍者	休学者	留年者 ※
大学院	博士	5	0	3	1	33%		2	2	6
	修士	94		79	51	64%	1	4	4	0
学部		1,300		1,125	867	77%	133	123	125	465
教職特別課程		11		12	5	41%		2	0	0
留学生別科		17					8	0	0	0

※ 修業年限を超えて在籍している学生数 (平成28年4月1日現在)

(単位：人)

主な就職先	JFEスチール(株) (株)大林組	新日鉄住金(株) 大成建設(株)	(株)クラレ (株)中国銀行	岡山県庁 西日本旅客(株)	他
-------	----------------------	---------------------	-------------------	------------------	---

## ■教職員数

学長	副学長	教授	准教授	講師	助教	教育講師	助手	別科講師	教員計
1	2	162	63	33	4	2	1	1	269

※学長・副学長除く

事務職員	うち大学職員	うち本部職員
	210	114

## 財務関係

### ■事業活動収支

(単位：千円)

科目		27年度 決算額	前年度 決算額(※1)
教育活動 収入	学生生徒等納付金収入	8,952,640	8,922,462
	経常費等補助金	715,936	784,113
	その他収入	1,031,198	955,352
	計	10,699,774	10,661,928
教育活動 支出	人件費	5,265,655	5,218,417
	教育研究経費	2,521,256	2,576,373
	管理経費	590,195	692,371
	その他支出(※2)	641	140,938
計	8,377,657	8,628,099	
教育活動収支差額		2,322,116	2,033,830
教 活 外	収 受 取 利 息 等	170	*
	支 借 入 金 利 息 等	47,448	*
	教育活動外収支差額	-47,277	*
経常収支差額		2,274,839	2,033,830
特 別	収 資 産 売 却 差 額 等	16,176	*
	支 資 産 処 分 差 額 等	47,082	*
	特別収支差額	-30,906	*
基本金組入前収支差額		2,243,933	2,033,830
基本金組入額合計		-147,085	-41,905
当年度収支差額		2,096,848	1,991,925

※1 前年度決算額は、新会計基準の該当科目に反映させた

※2 \* 「教育活動収支」の「その他収入・支出」に含めた

### ■施設設備整備(抜粋)

40年を経過し老朽化が目立つ建物、施設については、建て替えを実施するとともに、改修工事を行いました。また、装置・設備については、補助事業に基づき購入する機器を計画的に整備しました。

○主な施設関係 (単位：千円)

事業名	金額
新1号館新築工事	2,236,700
新1号館 電話・LAN設備工事	46,105
新1号館 入退室管理設備工事	26,223
新1号館 ITV設備工事	8,294
新1号館 入試広報部倉庫空調機設置工事	2,981
新1号館 7F&8Fクリーンルーム等設置工事	71,070
新1号館への外部インフラ工事	26,234
第28号館動物系排水管切替工事	2,670
蒜山学舎1階トイレ改修工事	1,888
自然植物園不法投棄防止対策(フェンス設置)工事	2,250
笹ヶ瀬キャンパス法面对策工事	1,620
笹ヶ瀬キャンパスグラウンドトイレ改修工事	9,858
加計記念体育館南側パルコニスロープ設置工事	2,500
第九学舎空調設備	15,000
学務部システム改修	16,200

(新学科開設年次以降の創設事業) (単位：千円)

事業名	金額
新1号館共用備品	179,000
電話交換機一式	69,000
ネットワーク支線・無線機器	23,000
ネットワーク幹線機器	54,781

○主な共同研究 (単位：千円)

事業名	金額
鉱物の物理化学特性から読み取る地球、惑星の環境変遷史事業共同研究	18,000
QOL向上を目指す支援技術のイノベーション研究拠点の形成事業共同研究	40,000
地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)	1,250

---

# 平成27年度 事業報告



創立20周年を迎え、地域に根ざした大学として、地域と協力して、地域の活性化に役立つ学生を育てるため、教職員が一丸となって、徹底した教育指導を行います。



教育面では芸術と科学の協調をさらに推し進めて、3つの学部の枠を超えた連携を深め、幅広い知識と柔軟な思考力を持つ学生の育成を引き続き行っていきます。また、これまで以上に教養教育を重視し、その内容を見直し、

学生が地域で活躍することができる常識と教養を身につけられるよう教育していきます。

研究面では地域貢献するための研究を推進し、より多くの教員が科学研究費補助金の申請を行うことで、研究に対する意識を向上させ、研究の成果を教育や地域社会に還元できるよう努めます。

地域との連携では昨年「地(知)の拠点整備事業」(大学COC事業)に採択され、くらしき作陽大学と共に倉敷市との連携を通じて、全学的に地域の課題解決のため、教育・研究・社会貢献の三位一体の改革に取り組んでいきます。

今年は創立20周年を迎える節目の年となり、これまでの20年を振り返り自己点検・評価し、建学の理念に掲げる人材の育成をめざし、さらなる教育改革と大学の環境作りに邁進していきます。

倉敷芸術科学大学 学長 河野 伊一郎

## 教育の充実

### ■教養教育改革

平成25年度より、現行の教養教育から教養科目と専攻科目が連動した全学的なカリキュラムの検討を始め、平成28年度から実施に向け、人間力・社会人基礎力の育成、初年次に大学で学ぶ意識を高める導入教育の強化、地域貢献に対する意識を高め地域で活躍する人材の育成および教育内容・教育方法の充実を図るよう準備しました。

それに先立ち、平成26年度に採択された「地(知)の拠点整備事業」(大学COC事業)の一環として、今年度より地域を志向した科目を必修科目として設定し、教育改革の第一歩を踏み出しました。

### ■年間履修上限単位の見直し

単位取得の実質化のため、大学での授業と授業外学習による学習習慣を確立し、学生の学習意欲を上げるよう年間の履修上限単位を見直し、自学自習教育環境の整備を含め教育の充実を図りました。

### ■学部・学科の改編

高校生にとって魅力ある学部・学科とは何か、地域社会に求められている教育とは何かをリサーチし、地域に根ざした大学にふさわしい学部・学科の設置に向け、平成29年度開設を目指し検討しました。

## ■産学連携教育

倉敷市の推進するまち、ひと、しごと創生事業や経済産業省所管の戦略的中心市街地商業等活性化支援事業、高梁川流域連盟の活動と協力し、都市づくり、産業、観光振興など地域と連携した人材育成を進めました。また、デザイン・映像分野では企業や行政機関から依頼される製品デザイン・CM等の製作により、学生の意欲向上をめざした生きた課題授業を実践しました。

## ■高大連携教育

・文部科学省SSH(スーパーサイエンスハイスクール)採択校や教育協力提携校との生命科学、IT科学、美術工芸、デザイン、アニメーション分野などでの連携を引き続き行い、大学、高校間の境目のない接続教育の実現を進めました。

・11月17日倉敷中央高校とくらしき作陽大学、本学の3者で教育提携の調印式を行い、両大学の教員による授業などを通して、高校生が大学の教育・研究の取り組みについての理解を深め、専門知識を学び、地域に貢献できる人材の育成につなげていけるよう努めました。

## ■入学前教育・初年次教育

昨年度に続き、入学前の新入生に対し、入学前教育課題集を作成、送付し、新入生が大学生活に期待や希望を抱いて入学できるよう、入学前準備教育を充実させました。入学後は、1年次対象に前・後期、基本英語・基本数学・基本化学・基本物理の4科目8単位の修得を可能とし、学生一人一人の学力に応じた個別相談ができる体制を加えることにより、初年次教育を充実させました。

## ■FD・SDへの取り組み

FD・SD研修会、授業アンケート、学生満足度に関するアンケート、授業公開などFD・SDへの取り組みを昨年度に引き続き実施しました。授業アンケートに関して、実施結果を分析し、授業改善に向け反映するよう努めました。

## ■学科等の特色ある取り組み

・芸術学部では、倉敷に根差した地域文化プラットフォーム形成のプロセス研究・開発を進めました。また、トップアーティストとのコラボレーション展覧会による先進アートの発信も計画し、地域の文化の中で感性を磨き実践的な学びを展開しました。

・産業科学技術学部では、平成25年度より市民生活の質の向上を高めるための市民講座を開設していましたが、今年度より「地(知)の拠点整備事業」(大学COC)の中で、教育改革と研究改革の成果を地域に還元する生涯学習の場としての「倉敷みらい講座」につなげました。

・生命科学部では、平成24年5月に設立された「鈴木章ミストリーネットワーク」を通じて、化学教育の普及をめざして活動しています。また、「地(知)の拠点整備事業」(大学COC事業)において、備災・減災力育成研究に取り組みました。

## ■教育改善の支援

### ・大学コンソーシアム岡山

大学コンソーシアム岡山では、岡山県内の16大学が連携し、(1)大学相互の協力と情報交換、(2)地域社会との交流と生涯学習の推進、(3)地域高校との連携、(4)地域創生学の構築、(5)地域発信による国際交流を行っています。本学は連携の中で、相互に単位互換として科目提供、また、生涯学習講座の講師派遣の一部を担いました。

### ・産業界のニーズに対応した教育支援

平成24年度から補助金事業として、地元の企業、経済団体、地域の団体や自治体等と産学協働し取り組んできた「産業界等との連携による中国・四国地域人材育成事業」が平成26年度をもって終了しましたが、継承事業として平成27年度「大学教育再生加速プログラム(インターシップ)を通じた教育強化)に中四国12大学の共同申請により採択されました。これにより前事業で構築したネットワークを活用し、倉敷市やロータリークラブ等の支援のもと地元企業との連携を深め、引き続きインターシップやキャリア教育に取り組み、低学年からキャリア体験をつむぐことにより、社会的・職業的に自立し、産業界のニーズに対応した人

材の育成に努めました。

### ■鍼灸ケアセンター

ヘルスピア倉敷にて、生命科学部健康科学科鍼灸専攻の学生が鍼灸ケアセンターを実習利用し、相互の連携を深めています。また、鍼灸治療院を開院し、本学有資格教員が下記の日程にて外部診療を行っています。

毎週火・木曜日

10:00～12:00、14:00～17:00



## 研究の充実

### ■科学研究費助成事業等獲得の推進

科学研究費助成事業（補助金分・基金分）、受託研究、共同研究事業等の外部資金を積極的に獲得することを推進しており、外部資金相談窓口を設けるとともに情報発信し、研究活動の充実を図りました。

## 学生支援

### ■修学支援

入試の多様化に伴い、学科の基礎学力として必要な科目を高校で学習しないで入学する学生がいます。そのため基礎学力の充実を図るため各科目（英語・数学・物理・化学）の学習相談や基本講座を開設し学習の支援を行いました。

### ■進路支援

#### ・就職ガイダンス

就職ガイダンスは、1，2年次生の低学年を対象

に数回開催しました。3年生前期からは、OB・OGの体験報告会や4年次生の内定者報告会をはじめ、マナーメイク講習、個人/集団面接トレーニングなども数回取り入れて実施しました。

#### ・就職対策講座

履歴書作成や小論文対策等を集中的に実施しました。また、公務員採用対策講座を通年で実施し、公務員希望者の支援をしました。

#### ・職業適性等

1年次生を対象に、大学生基礎力調査を実施しました。この調査により、自己発見・自己認識が進み、大学生活における具体的な目標設定が容易になるように支援しました。3年次生には、年2回（7月・10月）SPI適性模擬検査を実施し、学生が自分の基礎能力を知ることにより、採用試験に向けた対策に反映しました。また、11月には就職実践模試（一般常識・基礎学力テスト）やエントリーシート攻略テストを実施するなど、実際の就職試験に備えました。

#### ・就職支援

就職活動の質問、不安、悩みなどの対応ができるように24時間メールにて学生対応にあたりました。就職試験に向けた面接指導や履歴書指導のほか、就職に関する相談もキャリアセンターで随時受付し、学生に対するきめ細やかな就職支援を行いました。

#### ・学生カルテ

学生との面談記録、キャリアガイダンスの出欠状況などの就職活動状況がひと目でわかるように学生カルテを活用し、就職支援の一層の充実を図り、従来に増してきめ細かい学生支援を展開しました。

#### ・就職懇談会

企業担当者と教職員が情報交換を行う、加計グループ合同の就職懇談会を、東京、広島、大阪で開催し、就職先の開拓や採用情報の入手に努めました。

### ■生活支援

#### ・奨学金支援

日本学生支援機構の奨学金を中心に各種奨学金（地方自治体等）を含め、人物、学業に優れ、経済的な理由のため修学が困難な学生に経済的な援助を行

う事務窓口を設け奨学金支援をしました。

#### ・健康等支援・相談

学生の健康管理と健康増進を図るため、定期健康診断の実施や健康に関する相談、心理的・精神的な相談など大学生活全般にわたる支援を行いました。

#### ■留学生支援

新入生に対して、指定宿舎の部屋を確保し、生活面や学費減免、各種奨学金の紹介などの支援を行っています。また、在留資格の手続きなど大学生活を円滑に送ることができるように支援しました。

## 社会連携・社会貢献

#### ■地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)の推進

地域社会の課題解決に資する人材、情報、技術が集まる中核的存在としての大学を目指し「文化産業都市倉敷の未来を拓く若衆育成と大学連携モデル創出事業」のテーマで、昨年度よりスタートした大学COC事業を倉敷市と連携しながら、教育分野、研究分野、社会貢献分野についての諸活動を推進しました。具体的には、「くらしき若衆」育成プログラムに基づいた新科目である「倉敷と仕事」を必修科目とし、倉敷の著名な人物を講師として招き、実践的な教育を通して、地域社会のリーダーとして活躍できる人材育成を目指すと同時に、個性的で魅力的な文化の形成につながる「倉敷アートスタート研究」並びに安全・安心なまちづくりに寄与する「備災・減災力育成研究」を、地域と密着して進めて行き、それらの活動状況を公開講座である「倉敷みらい講座」の中で多くの市民の方々へ報告することで、地域の質を高めることに貢献しました。

#### ■倉敷市との人材育成の連携

10月15日に倉敷市と教育や防災などの分野の5項目で連携協力する包括協定を結び、両者の知的資源を活用し、地域社会に貢献できる人材の育成に努めました。

## 教育研究環境

#### ■施設等の充実

- ・芸術学部学生の作品を常時展示できるように11号棟廊下をギャラリーに改装しました。
- ・開学以来の空調設備の老朽化に伴い、よりよい環境のもと教育・研究が可能となるよう4号棟(図書館)の空調設備の更新を行いました。
- ・22号館教室を改修し、アクティブラーニングにも対応できる教育環境に整備しました。
- ・アドビ社すべてのソフト群を利用できるライセンス契約を結び、学生や教職員が教育的・事務的に幅広く活用できるようにしました。
- ・生命科学部健康科学科鍼灸専攻の実習施設のあるヘルスピア倉敷への市道が7月に開通し、より安全な移動が可能になりました。

## 学生の受入

#### ■創立20周年を迎え

創立20周年を記念し作成したロゴ「UNIQUE! 20years」、「アートの海、サイエンスの空、明日(あした)への丘。倉敷芸術科学大学」をキャッチフレーズとしたポスターなど、創立20周年をキーワードに各種媒体を利用し、広報展開をすすめ、一層の大学知名度向上に努めました。



#### ■オープンキャンパス

春は「考える」、夏は「深める」、秋は「極める」をテーマにオープンキャンパスを開催しました。学科ごとに模擬体験授業を行うなど、多彩なイベントを用意し、進路選択の一助となるよう開催しました。また、保護者の方にも安心できる大学として選択してもらえるよう、10月に保護者対象のオープンキ

キャンパスを開催しました。



### ■入試方法等

設置する学部・学科のアドミッションポリシーに沿った入学者の受入及び広範囲となる地域からの受験生ニーズに応えるべく、利便性に配慮した入試の実施に努めます。その一環とし、ネット出願を導入しました。

## 内部質保証

### ■自己点検・評価

本学では、開学と同時に自己評価委員会を設置し、自己点検・評価に取り組んでいます。この委員会には、学内委員のほか、産・官・学から1名ずつ外部有識者として構成員に迎え、外部委員の意見を評価に反映させています。大学院、学部、学科、各種委員会が当初目標を設定し、中間報告を経て最終到達報告を行い、次年度に前年度を踏まえた改善目標を設定するなどPDCAサイクルを機能させ教育改革を行いました。

### ■外部諮問委員会答申による改善

本学が一層の充実・発展を図るための大学改革のあり方について意見を求めることを目的に、学長の諮問機関として設置された外部諮問委員会の答申（平成26年3月）を受け、今年度もこの答申に沿って本学の充実・発展のため改善に努めました。

### ■教員業績システム

教員の基本情報、教育活動、研究業績、学内活動、

社会貢献活動等の項目をデータベース化し、教員情報システムの構築を推進しています。これにより、各教員の業績等を把握し、今後様々な面への活用を考えていきます。

## その他取組等

### ■創立20周年記念事業

創立20周年を記念し、記念オブジェの制作・設置、クラブハウスの増設、ホームページへの創立20年の歩みや将来に向けてのページの制作など記念事業を計画し、順次実施しています。

## 受賞・課外活動

### ■主な受賞

- 第66回岡山県美術展覧会
  - 洋画部門 県展特別賞1名、入選1名
  - 日本画部門 県展賞2名
  - デザイン部門 山陽新聞社賞1名、地域奨励賞1名、県展賞1名、入選5名
  - 工芸部門 県展特別賞1名、奨励賞1名
- テクネIDアワード（NHK ETV）
  - ポジ部門 優秀賞1名
- 目指せ日本一！倉敷 弁論大会
  - 最優秀賞1名、優秀賞1名
- 第5回加計杯日本語弁論大会
  - 優秀賞1名（留学生別科）
- 上野の森美術館大賞展
  - 入選1名
- 庄原市オリジナルナンバープレートデザイン公募
  - 優秀賞1名

### ■部活動報告

- バスケットボール部  
(男子)
  - 第7回中国学生バスケットボール新人大会 4位
  - 中国大学バスケットボール秋季大会 3位
- (女子)

第41回中国大学バスケットボール選手権

春季優勝大会 2位

第7回中国学生バスケットボール新人大会 優勝

中国大学バスケットボール秋季大会 2位

第67回全日本大学バスケットボール選手権大会 出場

○空手道部

第59回全日本学生空手道選手権大会 出場1名

○フィギュアスケート部

第54回岡山スポーツ賞 団体賞(冬季国体成年男子県選抜)

第87回日本学生氷上競技選手権大会 総合2位

第70回国民体育大会フィギュアスケート競技 男子3位

第41回西日本選手権大会 男子優勝

USインターナショナルクラシック 2015 2位

第9回西日本学生フィギュアスケート選手権大会男子優勝

2015NHK杯国際フィギュアスケート競技大会 男子5位

第84回全日本フィギュアスケート選手権大会 男子4位

四大陸選手権 日本代表 男子6位

○陸上競技部

第36回中四国私立大学対抗陸上競技選手権大会

男子200m 優勝、男子1500m 4位、

女子100m 4位、男子4×400m 2位

第38回中国四国学生陸上競技選手権大会

男子400m 優勝

## 人事・組織

### ■学長・副学長・学部長等の選出

学長等の役職の任期満了に伴い、学長、副学長、学部長、研究科長等の選出を行いました。学長：河野伊一郎氏、学長顧問：土井章氏(前学長)、副学長：加計悟氏(再任)、児島塊太郎氏(再任)及び田丸憲二氏(再任)、副学長補佐：猪木原孝二氏(再任)、芸術学部長：近藤研二氏(再任)、芸術研究科長：神原正明氏、産業科学技術学部長：濱家輝雄氏、生命科学部長・産業科学技術研究科長：宮野善盛氏(再任)、人間文化研究科長：小山悦司氏(再任)が就任し、新体制で大学運営に当たりました。

### ■組織の変更

大学改革をさらに進めるために改革推進室を発展的に廃止し、より具体的に計画、申請等を実施する企画室を設置しました。

## 主な行事

4月4日	入学前オリエンテーション
4月5日	入学宣誓式・大学院(通信制)入学宣誓式
4月6日 ～9日	新入生・在学生オリエンテーション
4月10日	前期授業開始
4月11日	霞祭
6月7日	春オープンキャンパス
7月25日 26日	夏オープンキャンパス
7月28日 29日	教員免許状更新講習会
7月31日 ～8月6日	前期定期試験
9月12日	教育懇談会(地方会場)
9月19日	教育懇談会(本学会場)
9月23日	留学生別科1年半コース入学宣誓式
9月24日	後期オリエンテーション
9月25日	後期授業開始
9月26日	秋オープンキャンパス
10月24日 25日	芸科祭 芸科祭・保護者対象オープンキャンパス
11月21日	合格者大学相談会(1回目)
11月25日	就職懇談会(東京会場)
2月3日 ～9日	後期定期試験
2月13日	合格者大学相談会(2回目)
3月4日	就職懇談会(広島会場)
3月11日	就職懇談会(大阪会場)
3月23日	学位記授与式

## 学生・教職員数

### ■在籍学生数

(平成27年5月1日現在)

研究科・学部・学科名		入学定員	入学者数		収容定員	在学者数			
			留学生	社会人		留学生	社会人		
大 学 院	芸術研究科(博士)	4	2	1	0	12	6	1	0
	芸術研究科(修士)	20	3	0	0	40	9	1	0
	産業科学技術研究科(博士)	4	1	0	0	12	2	0	0
	産業科学技術研究科(修士)	16	3	0	0	32	13	0	0
	人間文化研究科(修士)	15	4	3	0	30	6	4	0
大学院 計		59	13	4	0	126	36	6	0
芸 術 学 部	美術工芸学科 (募集停止)	—	—	—	—	70	39	1	0
	メディア映像学科	50	47	2	0	174	161	11	0
	デザイン学科	—	—	—	—	70	54	1	0
	デザイン芸術学科	55	46	5	—	110	81	8	—
計		105	93	7	0	424	335	21	0
技 産 術 業 学 部 学 部	経営情報学科	95	40	10	0	298	140	40	0
	観光学科 (募集停止)	—	—	—	—	90	36	15	0
計		95	40	10	0	388	176	55	0
生 命 科 学 部	生命科学科	50	47	0	0	190	200	1	0
	健康科学科	—	—	—	—	110	98	0	0
	健康科学科(健康科学専攻)	55	50	0	0	110	120	0	0
	健康科学科(鍼灸専攻)	30	16	0	0	60	23	0	0
	生命動物科学科	—	—	—	—	134	133	0	0
	動物生命科学科	60	52	0	0	120	103	0	0
	生命医科学科	50	57	0	0	200	209	0	1
健康医療学科 (募集停止)	—	—	—	—	60	25	0	1	
計		245	222	0	0	984	911	1	2
学部 計		445	355	17	0	1,796	1,422	77	2
<b>通学制 合計</b>		<b>504</b>	<b>368</b>	<b>21</b>	<b>0</b>	<b>1,922</b>	<b>1,458</b>	<b>83</b>	<b>2</b>
大 学 院 (通 信 制)	芸術研究科(修士)	10	2	0	2	20	4	0	4
	産業科学技術研究科(修士)	20	0	0	0	40	0	0	0
	人間文化研究科(修士)	30	1	0	1	60	5	0	5
計		60	3	0	3	120	9	0	9
学 部 (通 信 教 育 課 程)	産業科学技術学部 (募集停止)	—	—	—	—	—	1	0	0
	計	—	—	—	—	—	1	0	0
<b>通信制 合計</b>		<b>60</b>	<b>3</b>	<b>0</b>	<b>3</b>	<b>120</b>	<b>10</b>	<b>0</b>	<b>9</b>
<b>総合計 (通学制+通信制)</b>		<b>564</b>	<b>371</b>	<b>21</b>	<b>3</b>	<b>2,042</b>	<b>1,468</b>	<b>83</b>	<b>11</b>
別 科	留学生別科	60	12	12	—	80	34	34	—
	計	60	12	12	0	80	34	34	0

(単位:人)

## ■卒業者数等一覧

(平成27年度)

区分		修了者・ 卒業者	満期 退学	就職希望者 A	就職者 B	就職率 B/A	進学者	退学者・ 除籍者	休学者	留年者 ※
大学院	博士	1	2	0	0	0%	-	0	1	1
	修士	17	-	14	11	78.6%	0	2	1	0
学部		321	-	249	232	93.2%	15	55	21	26
大学院（通信制）		5	-	-	-	-	0	-	-	1
学部（通信教育課程）		1	-	-	-	-	-	-	-	-
別科	留学生	27	-	-	-	-	22	8	-	3

※ 修業年限を超えて在籍している学生数（平成28年4月1日現在）

（単位：人）

主な就職先	アコム損害保険(株)、NHK岡山放送局、岡山市農業協同組合、(株)河合楽器製作所 体育事業部、(株)北原産業、山陽映画(株)、(株)山陽レジャー、ダイヤ工業(株)、大洋パーク(株)、タカオ(株)、高松信用金庫、テラル(株)、西兵庫信用金庫、日亜化学工業(株)、名鉄観光サービス(株)、松山全日空ホテル、(株)エポックライズ、倉敷成人病センター、愛媛大学医学部附属病院、岡山済生会総合病院、高知大学医学部附属病院、広島赤十字・原爆病院、総社市役所、広島市消防局、Animal Care-Hospital ALOHA
-------	--

## ■教職員数

(平成27年5月1日現在)

学長	副学長	教授	准教授	講師	助教	助手	別科講師	教員計	事務職員
1	3	59	23	11	6	1	2	102	61

(1)

(単位：人)

\*教授欄：学長、副学長の1名を含む。講師欄：副学長1名を含む。( )内：事務系副学長

\*事務職員欄：外部機関への派遣1名を含む。

## 財務関係

### ■事業活動収支

(単位：千円)

年度		27年度	前年度
科目		決算額	決算額(※1)
教育活動収支	収入		
	学生生徒等納付金収入	2,215,770	2,348,834
	経常費等補助金	308,368	395,769
	その他収入	192,518	246,484
	計	2,716,656	2,991,086
	支出		
人件費	2,101,393	2,214,670	
教育研究経費	939,300	942,210	
管理経費	263,216	261,463	
その他支出(※2)	545	63,469	
計	3,304,454	3,481,813	
教育活動収支差額		-587,798	-490,727
教活外	収入		
	受取利息等	67	*
	借入金利息等	12,753	*
教育活動外収支差額		-12,686	*
経常収支差額		-600,485	-490,727
特別	収入		
	資産売却差額等	8,051	*
	資産処分差額等	60,048	*
特別収支差額		-51,997	*
基本金組入前収支差額		-652,481	-490,727
基本金組入額合計		0	-25,498
当年度収支差額		-652,481	-561,224

※1 前年度決算額は、新会計基準の該当科目に反映させた

※2 \* 「教育活動収支」の「その他収入・支出」に含めた

### ■施設設備整備

(単位：千円)

事業名	金額
図書館空調機更新	25,200
クラブハウス新築関係倉庫移設工事	3,094
20周年記念オブジェ	5,730
20周年記念オブジェ基礎工事	2,538
11号棟廊下ギャラリーへの改装工事	4,158
総合医療健康センター-高圧ケーブル改修工事	13,716
電話交換機設備更新	9,720
防犯カメラ設置工事	3,348
芸術学部実習室PC関連設備	18,818
顕微鏡デジタルカメラシステム	4,806

# 平成 27 年度 事業報告



## 千葉科学大学

「健康で安全・安心な社会」の構築に貢献できる人材の養成を行う



- 1、大学の外部評価を受けるために、平成 28 年度に自己点検評価を行い、その報告書を作成する。これに必要な事務体勢を作り、教職員の認識向上に努めた。
- 2、「銚子学」という新しい選択科目を開講し、講師陣に地域の専門家を加えて、これによって地域へ対する理解と地域との連帯感が深まった。
- 3、市を中心とした地域創世計画に積極的に関与し、本学として実行可能な寄与をした。

千葉科学大学 学長 赤木 靖春

### 教育の充実

#### ■地域志向科目の新規開講

銚子地域を学習する授業として、選択科目「銚子学」の講義を始めました。今後、全学部必修化をめざします。

#### ■日本語補習講座の開講

外国人留学生を対象に日本語能力検定 2 級合格を目標とした補習講座を開講しました。

#### ■FD活動の推進

学生による授業評価アンケート、教員対象のFD講演会、教員相互に行う公開授業およびFD活動に関する意見交換会などを実施、FD活動を推進しました。

#### ■大学間連携共同教育推進事業

本学と千葉大学及び城西国際大学による、5 個のプログラムにおける Eラーニング及び演習を実施し、各大学にて受講修了学生による成果発表会を開催しました。

#### ■社会人大学院サテライト教室（東京）

社会人の学び直しに 대응するため、在職のままで学位取得の可能な「大学院危機管理学研究科サテライト教室」において、危機管理学に関しワン・ストップで総合的に学び、修士、博士の学位が取得できる大学院教育を推進します。今年度は、3名の社会人が受講しました。

## 学生支援

### ■進路支援

学生に対する就職支援、キャリア支援、各種資格取得支援、就職先企業の開拓などをおこなっています。特に、地元出身学生の増加に合わせて、地元および周辺地域企業に重点を置いて開拓を行いました。

### ■就職支援

3年次生を対象に、就職活動を進める上で必要なテーマを取り上げる就職ガイダンスや、様々な業界を知る業界セミナーを学内で開催します。また、3年次生（薬学科は5年次生）全員との個人面談を実施し、個別指導を行いました。

### ■インターンシップ

企業等に学生を派遣するインターンシップに取り組み、夏期に1～2週間の就業体験を実施しました。

### ■合同業界研究会

各事業所の担当者と本学学生がブース別に面談しそれぞれの事業所の仕事内容についての説明会を学内で開催しました。

### ■キャリア支援

キャリア支援科目にスタッフを派遣し自己理解やコミュニケーションの重要性などを学生に伝えました。

### ■公務員試験対策

2月から3月にかけて公務員採用試験の筆記対策として基礎講座（主に1・2年次対象）、実践講座（3年次対象）を開講しました。また、学内にて面接対策セミナーを実施しました。

業者主催公務員模擬試験を学内で実施しました。

### ■就職先企業開拓

様々な業種の企業を新たに訪問し、就職先の開拓を行いました。特に銚子市周辺の地元企業の開拓に努めました。また、加計グループ5大学1短大共催

の企業懇談会（東京、大阪、広島）を開催しました。

### ■各種資格取得支援

防災士、危険物取扱者などの試験対策講座を開講し、資格取得試験を学内で実施しました。

### ■生活支援

新入生・在学生オリエンテーションや各種奨学金の説明会・アパートの紹介など学生の日々の生活に関連する諸々の支援の充実に努めました。

### ■留学生支援

新入生オリエンテーションから日本語や日本の文化に慣れるように在学留学生の協力を得て新入生への指導を行いました。

- ・BBQ 留学生との交流会 6月6日 38名参加
- ・一日研修旅行 11月23日 34名参加
- ・加計杯日本語弁論大会 11月20、21日  
3名出場中1名最優秀賞受賞・最優秀校受賞

### ■学生図書委員会制度の運営

平成25年度より学生図書委員会制度を設立し、学生からの要望を取り入れ、学生目線にたった図書館運営を行いました。

## 社会連携・社会貢献

### ■地（知）の拠点整備事業

「防災・郷土教育を積み上げた、人に優しく安心して住める地域創り」は本学による地域社会貢献事業です。平成26年度、文部科学省「地（知）の拠点整備事業（COC）」に採択されました。地域活性化の中核を担う大学として、地域の活性化のために人材の育成に取り組みました。

### ■C I Sフォーラム

有識者による講演会、ポスター発表件数は31件となり内訳は、関連大学(4件)、地域企業(3件)、本学(24件)で最新の研究成果やシーズを紹介しました。来場者数は183名となりました。

### ■ボランティア活動

社会に貢献しながら学ぶ体制を確立するために、学生団体や一般学生にボランティアや地域貢献に関する情報を流し参加する仕組みを整備し、ボランティア活動を実施しました。

9月 東北地方復興支援ボランティア 11名派遣  
10月 常総市へ災害ボランティア 18名派遣

### ■銚子ジオパーク

銚子ジオパークとして認定を受けた屏風ヶ浦の地層犬吠埼の浅海堆積物などを観光資源として活用し地域住民の郷土愛の育成等を通して地元の小中学生・高校生に地元の地質資源の理解及び普及活動を行い「地育地就」にも貢献しました。

### ■図書館の地域市民への開放

開学以来、図書館を地域、市民の皆様へ開放しています。昨年度より図書館報を発刊し、図書館資料を活用した市民公開講座の開催により、市民との連携強化に努めました。

### ■市民公開講座の開催

平成24年・25年・26年に引き続き、市民公開講座を年6回開催していきます。第1回（科学実験）91名参加、第2回（看護の科学）97名参加、第3回（健康の科学）105名参加、第4回（環境の科学）75名参加、第5回（防災の科学）81名、第6回（医薬の科学）80名となりました。内、修了証交付者が32名となりました。

### ■教員免許状更新講習の実施

地域からの要望もあり、昨年に引き続き教員免許状更新講習を実施しました。

### ■日本語能力検定試験

本学が日本語能力検定試験会場となりました。

### ■教育提携校締結の拡大と関係強化

今年度は協定を締結した高校との相互関係を一層強化できるよう、出張講義、オープンキャンパス参

加は勿論、学生・生徒の研究発表等の開催や高校教員との意見交換会の開催等の働きかけも行いました。

### ■出張講義の拡大と内容の充実

高等学校へのお出張講義の実施回数を増やしていくことに努め、知の拠点としての大学の機能をさらに発展させました。

### ■English Camp（高校生対象） 3月

銚子市内にある高等学校に通う生徒を対象に本学において2日間の英語セミナー（会話を中心）行いました。

## 国際交流

### ■Japan Bowl

4月に米国にて行われるJapan Bowlに出席出来ませんでした。

### ■海外からの研修団受入

4月	シンガポール交換留学生 4名参加
6月	Great Falls 研修団（小学校）
	Langley 高等学校研修団
7月	アメリカ・ブラジル研修団 28名参加
	フィンドリー仕事体験生終了
9月	フィンドリー仕事体験生受入
10月	シンガポールポリテクより研修団 13名参加

### ■海外へ研修団派遣

8月	ライト大学へ海外研修団派遣 1名参加
	フィンドリー大学へ海外研修団派遣 1名参加
8月	ブラジル2大学へ海外研修団派遣 1名参加

## 教育研究環境

### ■キャンパス美化

学内のキャンパス美化について、①学生・教職員の美化意識の向上②施設のメンテナンスの実施③アウトソーシング部分の見直しと改善案の検討等について中期目標(4年間)に基づき、単年度目標を定め、キャンパス美化について推進しました。

### ■省エネの推進

学内の省エネについて、①省エネに取り組める体制作り②学生・教職員の省エネ意識向上③省エネ器具、設備等の導入推進等中期目標(4年間)に基づき、単年度目標を定め、ポジティブな省エネも取り入れながら推進しました。

### ■全学共通学生情報システム導入

入試広報室と学務部が使用している学生情報管理のシステムが異なっていたため、リアルタイムでの学生情報が全学で共有出来ていなかったため、全学(教職員・事務職員)で情報を共有することが出来る新システムを導入し、11月24日より試験運用開始し、平成28年4月1日より本格稼働する事となりました。

## 学生の受入

### ■入試方法等

センター利用試験入試において(前期)と(後期)の間に(中期)を新たに設け、3科目の試験科目で選抜を行いました。一般入試(センター試験利用入試を含む)より、ネット出願を導入し、出願手続きの簡便さを図りました。

### ■オープンキャンパス

各学部・学科イベントに時間帯に、全体イベント

等を極力開催しないようにし、参加者が複数の学科等を訪問しやすいタイムスケジュールとし、盛況感のあるイベントを催し、参加した高校生が、「この大学で、この学科で、この研究室で、こんな勉強をしてみたい」という夢と希望を持つだけでなく、実現に向けた手伝いができるような内容を企画し、より充実させたものを提供しました。

## 内部質保証

### ■FDワーキンググループ

FDワーキンググループは、前期・後期2回の学生による授業評価アンケート、年数回のFD講演会、公開授業および意見交換会などを継続して実施し、学生の満足度を向上させる教育改善をめざしました。

## 主な行事

4月3日	新入生オリエンテーション
4月4日 ～5日	新入生宿泊研修
4月6日	在校生前期オリエンテーション
4月7日	入学宣誓式
5月31日	オープンキャンパス
7月25日 ～26日	オープンキャンパス
7月29日 ～8月8日	前期定期試験
8月1日 ～5日	教員免許状更新講習会
8月29日	オープンキャンパス
9月1日	企業懇談会（鹿島会場）
9月12日	教育進路懇談会（地方）
9月19日	オープンキャンパス
9月24日	後期オリエンテーション
9月26日	教育進路懇談会（本学）
10月24日	C I Sフォーラム
11月21日 ～22日	青澄祭（大学祭）
11月25日	就職懇談会（東京会場）
12月12日 ～13日	合同業界研究会
1月26日 ～2月6日	後期定期試験
3月4日	就職懇談会（広島会場）
3月11日	就職懇談会（大阪会場）
3月25日	学位記授与式

## 学生・教職員数

### ■在籍学生数

(平成27年5月1日現在)

研究科・学部・学科名		入学定員	入学者数			収容定員	在学者数			
			留学生	社会人	留学生		社会人			
大 学 院	薬学研究科（博士一貫）	3	1	0	0	12	3	0	0	
	薬学研究科（博士）	5	1	0	0	15	1	0	0	
	薬学研究科（修士）	10	1	0	0	20	5	1	0	
	危機管理学研究科（博士）	3	0	0	0	9	3	0	3	
	危機管理学研究科（修士）	5	6	0	3	10	12	3	4	
大学院 計		26	9	0	3	66	24	4	7	
学 部	薬 学 部	薬学科（6年制）	120	179	9	1	730	660	25	2
		薬科学科 <small>（募集停止）</small>	—	—	—	—	0	3	0	0
		動物生命薬科学科 <small>（募集停止）</small>	—	—	—	—	0	0	0	0
		生命薬科学科	40	19	0	0	160	90	3	0
	計		160	198	9	1	890	753	28	2
	危 機 管 理 学 部	危機管理システム学科	100	86	5	0	400	358	52	0
		動物・環境システム学科 <small>（募集停止）</small>	—	—	—	—	0	8	0	0
		環境危機管理学科	40	28	0	0	160	109	4	0
		医療危機管理学科	80	96	1	1	320	351	1	1
		工学技術危機管理学科	40	12	0	0	160	33	4	0
動物危機管理学科		40	36	1	0	160	130	1	0	
計		300	258	7	1	1,200	989	62	1	
学 部 護	看護学科	80	89	0	0	160	185	0	0	
	計	80	89	0	0	160	185	0	0	
学 部 計		540	545	16	2	2,250	1,927	90	3	
<b>総 合 計</b>		<b>566</b>	<b>554</b>	<b>16</b>	<b>5</b>	<b>2,316</b>	<b>1,951</b>	<b>94</b>	<b>10</b>	
留学生別科		40	18	18	0	40	29	29	0	

(単位：人)

### ■卒業生数等一覧

(平成27年度)

区分	修了者・ 卒業生	就職希望者 A	就職者 B	就職率 B/A	進学者	退学者・ 除籍者	休学者	留年者 ※
大学院	8	2	2	100%	0	2	1	2
学部	296	228	217	95%	18	46	21	93

※ 修業年限を超えて在籍している学生数 (平成28年3月31日現在)

(単位：人)

主な就職先	アイングループ、ウエルシアホールディングス、クオール㈱、日本調剤㈱、戸田中央医科グループ、上尾中央総合病院、千葉市病院局、旭市役所、神栖市役所、横浜市消防局、仙台市消防局、千葉市消防局、警視庁、千葉県警察本部、埼玉県警察本部、海上保安庁、茨城県教育委員会、国土防災技術㈱、日本郵便㈱、銚子商工信用組合、水ing㈱、㈱三栄コーポレーション、鴻池運輸㈱、㈱ビー・エム・エル 他
-------	--

### ■教職員数

(平成27年5月1日現在)

学長	学長代理	副学長	教授※	准教授	講師	助教	助手	別科講師	教員 計	事務職員
1	1	2	67	20	20	12	2	1	126	53

※大学院教授1名含む

(単位：人)

## 財務関係

### ■事業活動収支

(単位：千円)

科目		年度	
		27年度 決算額	前年度 決算額(※1)
教育活動収支	収入		
	学生生徒等納付金収入	3,110,064	2,861,586
	経常費等補助金	352,671	789,179
	その他収入	192,753	204,942
	計	3,655,488	3,855,707
	支出		
人件費	2,268,330	2,053,687	
教育研究経費	1,343,844	1,493,495	
管理経費	409,061	454,822	
その他支出(※2)	1,335	7,710	
計	4,022,570	4,009,714	
教育活動収支差額		-367,082	-154,006
教 活 外	収 受 取 利 息 等	86	*
	支 借 入 金 利 息 等	5,307	*
	教育活動外収支差額	-5,221	*
経常収支差額		-372,303	-154,006
特 別	収 資 産 売 却 差 額 等	4,606	*
	支 資 産 処 分 差 額 等	55	*
	特別収支差額	4,552	*
基本金組入前収支差額		-367,752	-154,006
基本金組入額合計		-69,394	-33,433
当年度収支差額		-437,146	-187,439

※1 前年度決算額は、新会計基準の該当科目に反映させた

※2 \* 「教育活動収支」の「その他収入・支出」に含めた

### ■施設設備

(単位：千円)

事業名	金額
図書館増築工事(建設仮勘定)	1,404
全学共通学生情報システム導入	40,176
証明書自動発行機購入	7,722
薬学部研究用機器購入 (ゼータ電位、粒径、分子量測定システム一式)	12,636
看護学部看護学科図書購入(創設費)	2,200

# 平成 27 年度 事業報告

## 岡山理科大学附属高等学校

教育の質的改善に取り組むことによって、地域社会からいっそう信頼される高等学校づくりを推進しました。



建学の理念や校訓を実質的に実りあるものにするために、次のような教育活動の方針を定着せしめるよう努力しました。

- (1) 高等学校教育を組織的な最後の教養教育の場としてとらえ、各教科をしっかりと教えることによって、生徒に継続的な勉学の習慣と確かな学力を身につけさせる。
- (2) 高等学校時代を人生で人格的変容のもっとも重要な時期ととらえ、依存的な子どもから自立的な大人へと脱皮してゆくように、生徒の生活指導を行う。
- (3) 生徒の安全と身体的健康に注意し、自由で開明的な校内雰囲気を醸成する。  
特に、以下の5つの課題に重点的に取り組みました。

- ①財務改善
  - ②進学実績の向上
  - ③教育学科の振興・育成
  - ④SSHの校内普及と授業改善
  - ⑤校内運営組織の簡素化と情報の共有化
- 上記④、⑤については相当の成果が得られたが、①～③については、努力の割には実績がいまひとつなので今後ハードな努力を要する。教職員の意識改革が大切である。

岡山理科大学附属高等学校  
校長 宮垣 嘉也

### 教学の充実

#### ■SSH校としての取組

・全校一丸となり、研究開発・指導に取り組む体制を構築し、実行しました。

1年生全体が取り組むサイエンスワークが2年目を迎え担任の独自性が発揮されてきました。この結果が授業改善へとつながるためには、今一層の努力が必要であるが方向性としては間違っていない。課題研究では2年生が希望選択から全員履修に変えたことによるばらつきが出た。生徒によっては積極的に取り組む姿勢が弱い者もいた。生徒の興味を掻き立てる方法を模索する必要がある。

大学聴講は一定の成果を出している。生徒はかなり真剣に取り組み、単位を落とす者が少なかった。次年度は第1期の最終年度になるので総括と次につながる取り組みが求められる。

#### ■関連校・提携先との連携による質の高い教育の提供

・高校での授業に加え、関連大学や関連専門学校での実習、聴講を体験することで、多面的な理解を深めました。また、より体験的な教育として、学園の提携する施設等（池田動物園・山田養蜂場他）での実習により、興味・関心を深めることができました。

#### ■学校内での学力向上取組

- ・学校行事を精選し、より多くの授業時間を確保しました。
- ・補習や諸検定試験、模試を有効に活用し、学力向

上に努めました。

## 生徒指導

### ■生徒指導

・教育相談室・保健室・担任・生徒部・管理職との連携を強化しました。7月には、保健室・教育相談室合同委員会を開催して教員間の連携を図り、生徒の学校生活支援に努めました。

・朝のあいさつ運動を実施し、合わせて生徒の服装・頭髮の乱れなどへの指導を行いました。

・毎朝、教員による自転車・バス指導を行いました。

・生徒を中心とした自転車マナー向上運動を実施しました。サイクルマナーアップモデル校の指定を受け、岡山西警察署の協力により自転車指導を行いました。

・PTAと協力しての保導活動（街頭保導・列車保導を年間50回）を行いました。

・岡北セーフティネットを通じて地域との協力・連携を強化しました。岡北学区学校連絡協議会（6月には理科大学と本校、2月には岡山大学が当番校）を開催して情報交換を行い、地域との協力・連携を図りました。

・いじめ予防のための人権学習（アンケートや資料を使つての話し合い）を行いました。

## 進学・就職指導

### ■進学指導と就職活動支援

・国公立大学への進学者が増えるよう、学力向上を目指したプログラムとして、センター試験対策講座、国公立対策特別教室、夏季特別講座、冬季特別講座を実施しました。

・関連大学を紹介する機会（関連大学説明会）を増やし、関連大学への進学意欲を更に向上させました。

・大学訪問及び広く情報交換を行い、指定校獲得を目指しました。

・生徒に合わせた就職指導を行い、学校斡旋就職率

100%を達成しました。

・生徒の進学意識や意欲の向上を目指す目的として、神戸大・徳島大・島根大・甲南大・川崎医療福祉大学を訪問しました。

・キャリア教育講座として、三菱自動車工場見学・出前講義を実施しました。また、学年別で進路ガイダンスを実施しました。

## FD・SD

### ■教職員への資質向上への取組

・先進的な教育や取り組みをしている学校等を視察・見学・体験し、本校への導入を検討することで、新たな教育の展開に努めました。

・外部講師を招き、資質向上のための講演会を実施しました。

### ■授業アンケートによる授業評価

・生徒、保護者に授業アンケート等を実施しました。結果を以後の学校運営や授業へ反映することでより良い教育の提供に努めました。

## 科・コースの取組

### ■教育学科

初年度を迎え、設置理念に沿った教育を実施しました。教育専門科目、ボランティア活動など当初の理念を念頭に、設置理念に向かって邁進しました。

### ■普通科

コースの特色を生かした取り組みとして、進学理大コースを中心としたSSHの取組、生命動物コースの課題研究及びアニメ・デザインコースの校外での作品展を実施しました。学力向上の面では、東京6大学のうち5大学で合格実績を上げることができましたが、国公立の合格者数伸ばすことができず、次年度の課題となりました。

## ■機械科

・資格取得の強化のため、徹底した補習（機械保全、危険物、計算技術等）を実施しました。

＜主な資格取得状況＞

- ・ジュニアマイスター顕彰 シルバー 2名
  - ・職業教育技術顕彰 8名
  - ・工業教育技術顕彰受賞者 5名
  - ・技術検定（機械保全）2級4名、3級24名
  - ・機械製図検定 13名
  - ・ガス溶接14名、アーク溶接4名
  - ・高所作業車運転技能講習39名
  - ・計算技術検定2級9名、3級51名
- その他 多数の資格取得
- ・高大連携を構築し、関連大学への進学にも注力しました。

## ■電気情報科

1. 国家資格等の取得を目指し、対策講座等を実施しました。

＜主な資格取得状況＞

- ・電気工事士 3名
  - ・低圧電気取扱特別教育 19名
  - ・高所作業車特別教育 12名
  - ・ガス溶接 2名
  - ・小型建設機械技能講習 9名
  - ・クレーン運転特別教育 8名
  - ・玉掛け技能講習 8名
  - ・小型移動式クレーン運転技能講習 3名
  - ・フォークリフト技能講習 3名
  - ・危険物取扱者乙種第4類 1名
2. 高大連携を推進し、関連大学への進学にも注力しました。
- ・岡山理科大学3名
  - ・倉敷芸術科学大学1名
3. 就職希望者には面接指導等を強化しました。

## 通信制課程

### ■通信制課程

教育を受ける機会を最大限に配慮し、入学、転入学については、随時可能としています。

また、入学した生徒に対し、学年令の区分には縛られない、生徒の希望、資質、進路に適合したユニークなクラス編成を設定し、生徒のニーズに合った指導を実施しました。

〈今後の取り組み目標〉

#### 1. 平日コースの充実

小学校、中学校就学時において、何らかの要因で十分な教育の機会と成果を得ることが出来ていない生徒に対して、平日、週2日の通学を施しH・R、所定の授業、学校行事、各種研修を計画的に実施することにより、自律・協調・継続という社会性と教養を高める指導を単位制・学年制で充実させることができました。

#### 2. 進路先の開拓と充実

通信制課程高等学校卒業後の進路確定率をさらに向上させるよう努めました。

#### 3. 生徒募集活動の強化

学校説明会を毎月実施しました。また、ホームページの内容を充実させ、募集活動に結びました。

## 主な行事

4月 8日	始業式
4月 9日	入学式
4月12日	入学式（通信）
5月16日	P T A総会
6月17～ 18日	球技大会
6月20日	第1回オープンスクール
7月18日	第2回オープンスクール
7月19日	後援会総会（通信）
7月26日	卒業式（通信）
8月30日	入学式（通信）
8月24日～ 28日	部活動オープンスクール

9月30日	体育祭
9月27日	第3回オープンスクール
10月2日	文化祭
10月3日	文化祭（通信）
10月24日	第4回オープンスクール
12月6日	卒業式（通信）
12月20日	入学式（通信）
1月9日	県外生入試
2月4・5日	選抜Ⅰ期入試
2月24日	選抜Ⅱ期入試
3月1日	卒業式
3月13日	卒業式（通信）
3月18日	終業式

## 生徒・教職員数

### ■在籍生徒数

（平成27年5月1日現在）

課程・学科・コース名		入学定員	入学者数	収容定員	在学者数	
全 日 制 課 程	教育学科	40	10	40	10	
	普 通 科	特別進学コース	20	321	1,140	893
		進学理大コース	60			
		進学総合コース	60			
		生命動物コース	40			
		アニメ・デザインコース	60			
		健康・スポーツコース	60			
		中高一貫コース	80			
		進学医療コース （募集停止）				
	普通科 計	380				
機械科	80	66	240	168		
電気情報科	（募集停止）		80	53		
全日制課程 計	500	397	1,500	1,124		
通信制課程（広域）普通科			600	223		
総合計	500	397	2,100	1,347		

（単位：人）

## ■ 卒業生数等一覧

(平成27年度)

区分	卒業生	就職希望者	就職者	就職率	進学希望者	進学者	進学率	退学者・ 除籍者	休学者	留年者 ※
		A	B	B/A	C	D	D/C			
全日制課程	376	68	68	100%	298	298	100%	10	1	0
通信制課程	75	24	14	58%	46	39	85%	20	3	0

※ 修業年限を超えて在籍している生徒数 (平成28年4月1日現在)

(単位：人)

主な就職先	JFEスチール(株)、トヨタ自動車(株)、(株)デンソー、ダイハツ工業(株)本社、菅公学生服(株)、カバヤ食品(株)、三井造船(株) (株)明治機械製作所、両備ホールディングス(株)、(株)エディオン、(株)DNP住空間マテリアル、旭電業(株) 他
主な進学先	神戸大学、広島大学、岡山大学、香川大学、大分大学、琉球大学、鹿屋体育大学、鳥取大学、早稲田大学、 慶応義塾大学、明治大学、立教大学、法政大学、同志社大学、立命館大学、関西大学、関西学院大学、甲南大学、 岡山理科大学、倉敷芸術科学大学、千葉科学大学、吉備国際大学 他

## ■ 教職員数

(平成27年5月1日現在)

校長	副校長・教頭	教諭	教員 計	事務職員
1	4	69	74	20

(単位：人)

## 財務関係

### ■ 事業活動収支

(単位：千円)

科目		27年度 決算額	前年度 決算額 (※1)
教育活動 収入	学生生徒等納付金収入	661,128	680,865
	経常費等補助金	333,327	341,497
	その他収入	182,245	110,266
	計	1,176,700	1,132,627
	教育活動 支出	人件費	1,098,052
教育研究経費		312,941	287,506
管理経費		112,551	146,583
その他支出(※2)		0	27,829
計		1,523,544	1,492,155
教育活動収支差額		-346,844	-359,528
教育活動 外	収入 受取利息等	50	*
	支出 借入金利息等	21,060	*
	教育活動外収支差額	-21,011	*
経常収支差額		-367,855	-359,528
特別	収入 資産売却差額等	970	*
	支出 資産処分差額等	839	*
特別収支差額		132	*
基本金組入前収支差額		-367,723	-359,528
基本金組入額合計		-262,505	-34,041
当年度収支差額		-630,227	-393,568

※1 前年度決算額は、新会計基準の該当科目に反映させた

※2 \* 「教育活動収支」の「その他収入・支出」に含めた

### ■ 施設設備整備

(単位：千円)

事業名	金額
第2校舎1階男子トイレ改修	8,844
第10校舎2階職員来賓トイレ改修	6,129
第10校舎3階男子生徒トイレ改修	5,305
第10校舎外壁修繕工事	19,100
第10校舎廊下・階段修繕工事	4,400
剣道場東側斜面崩落防止対策工事	1,200
野球場修繕工事	17,118
ソフトテニスコート人工芝修繕	1,080
11校舎廊下階段床張替え	1,512
10校舎屋外階段床修繕	983

# 平成 27 年度 事業報告



## 岡山理科大学附属中学校

中高一貫校の優れた教育内容を提供し、学んでいる子どもたちの学力をさらに伸ばし、難関大学入試を突破するだけでなく、社会に出て各分野で活躍できる人材を育成します。



従来の暗記や単純な演習中心から『自ら主体的に学ぶ力を身に付けると共に、学ぶ喜びを共感できる』生徒の育成を目標にし、受験勉強にとらわれることなく、本当の学び方、学問の面白さ、学ぶ楽しさをも伝えていきました。

また、本校の特色のひとつである中・大連携により、自然教室・天体観測・環境問題などの学習活動を行うことによって知識や技能の深化を図り、国際交流やボランティア活動を通じて幅広い人間性を構築し、論語をとりいれた道徳教育により正しい判断と実践ができる全人的な人材の育成に努めました。

加えて、附属高校校訓を下に「立志三風」を定め、その実現のために「生活三則」の指導を教職員一丸となって取り組みました。

また、本校の特色のひとつである中・大連携により、自然教室・天体観測・環境問題などの学習活動を行うことによって知識や技能の深化を図り、国際交流やボランティア活動を通じて幅広い人間性を構築し、論語をとりいれた道徳教育により正しい判断と実践ができる全人的な人材の育成に努めました。

### 立志三風

- 一、慎独・去雑心の志風と守る（自主）
- 一、振気・勉学の良風と尚ぶ（努力）
- 一、忠恕・爽凜の美風と養う（友愛）

### 生活三則

- 一、場と清めましよう
- 一、時と守りましよう
- 一、礼と正しましよう

岡山理科大学附属中学校

校長 河村 定彦

## 教学の充実

### ■クラス別教育目標

- ・スーパー選抜クラスの全国中学校偏差値60を維持し、岡山県での合格難関校の維持を目指しました。また自ら進んで学習する「自立学習」を身につけさせることで、難関大学に合格できる学力を養いました。
- ・選抜クラスは、基礎学力の充実をはかり、学ぶことの大切さを身につけさせ、大学進学に対応させました。

### ■授業計画書の作成

全科目の授業計画書を作成し、授業内容及び授業進度を生徒・保護者が理解し、円滑な学習活動を推進しました。

### ■チューターによる自習教室

通年で週3日（月・水・金）開設し、生徒の自学自習能力を向上させました。

### ■イマージョン教育

実技科目でイマージョン教育を実施し国際性豊かな人材育成を図りました。

英会話は1～3年生の全クラス、イマージョン美術はスーパー選抜クラス1・2年を対象に実施しました。

### ■実用英語技能検定・漢字能力検定を全生徒に実施

- ・1年在籍生徒の8割以上が5級以上を取得しました。
- ・2年在籍生徒の7割以上が4級以上を取得しました。
- ・3年在籍生徒の約6割が3級以上を取得しました。
- ・教員が生徒に対し、積極的に受検指導を行い、特に2次対策としてマンツーマンで面接指導を行いました。

### ■TOEIC Bridgeを1・2年生の生徒に実施

- ・2年終了時には180満点中120点をスコアとすることを目標としました。(3月に実施)
- ・150点を超える生徒にはTOEIC受験を積極的に促しました。

### ■教員研修会

『授業改善』を目的に数学・道徳において研修会を実施しました。

## 生徒指導

### ■社会性規範育成への取組

社会的なモラルは学校生活においても不可欠です。学校独自としての規則だけではなく、その場の状況に適した言動が取れるよう、常日頃から生徒への指導を行い、また話し合いも大切にしました。

### ■服装指導の実施

服装モットーは「凜とした爽やかさ」です。規定のものに限らず全てにおいてTPOに合わせ、清々しさを持った着こなしを目指し、指導や声かけを行いました。

### ■将来につながるリーダーの育成

体育祭、爽凜祭(学習発表会)、球技大会、オープンスクールなど様々な学校行事のほとんどは実行委員が主体性を持って運営していきます。その中で企画力、実践力を学び、総合的に人間力を高めるよう指導を行いました。

### ■挨拶の励行

気持ちを込めて挨拶ができるように、また、正しい言葉遣いができるよう励行しました。

### ■情報教育

外部講師を招き、インターネット等によるトラブルにまきこまれないための情報教育を行いました。

### ■家庭、地域社会との協力・連携強化

スクールバスの乗車指導・通学指導などの登下校指導の実施、毎日の生活ノートの確認など生徒の学校生活や地域および家庭での生活をサポートしました。

### ■教育相談室・保健室との連携

思春期である中学生期を心身ともに健康で過ごすために綿密に連絡を取り、連携を強化しました。

## 教務関係

### ■授業・学習関係

- ・1単位当たり年間35時間の授業時間を確保し、行事や休日では抜ける授業は代講日の設定、平日補習、夏期補充、春期補充を行いました。
- ・自習教室や平日補習を利用し、クラスの種別に関係なく、授業で理解できなかった部分の補いができる機会を創設し、多くの生徒が活用しました。部活動より補習等の学習活動を優先させました。
- ・休業期間中の補習は進路指導課と連携し、夏期に8日、冬期に3日、春期に4日実施しました。実施科目は国語、社会、数学、理科、英語とし、部活動より指名補習を優先させました。
- ・1年生では学習成績や本人の希望により選抜クラスからスーパー選抜クラスへの移動を認め、9名が移動しました。

### ■カリキュラム・シラバス関係

授業(数)中心のカリキュラムから学習内容の理解度に応じた指導が可能なカリキュラムを作成しました。授業で復習が十分できない場合は先取り学習に固執せず、学習内容の定着を第一としました。

### ■ 考査関係

・定期考査の成績処理終了後、各教科に各学年の学習進捗状況の把握、授業計画書の見直しを求め、実施しました。

・成績不振と判定する基準点を設け、指名補習で基準点に達していない生徒への指導を行いました。指導期間中の部活動は原則禁止としました。

### ■ 情報発信

・学年通信を発行し、生徒の現況を家庭に伝え教育活動への協力を求めます。文書とウェブの両方を活用しました。

## 主な行事

4月9日	入学式
4月16日	健康診断
4月18日	授業参観
5月30日	PTA総会
6月2日	音楽鑑賞
9月26日	体育祭(岡山ドーム)
10月31日	爽凜祭(学習発表会)
11月12日～14日	修学旅行
1月22日	百人一首大会
2月4日～5日	校外活動
3月17日	義務教育修了式
3月25日	修了式
3月18日～26日	海外研修

## 生徒・教職員数

### ■ 在籍生徒数

(平成27年5月1日現在)

学校名	入学定員	入学者数	収容定員	在学者数
岡山理科大学附属中学校	80	55	240	167

(単位：人)

### ■ 教職員数

(平成27年5月1日現在)

校長	教頭	教諭	教員計
1	1	16	18

事務職員
2

(単位：人)

## 財務関係

### ■事業活動収支

(単位：千円)

科目		年度	
		27年度 決算額	前年度 決算額(※1)
教育活動 収支	収入		
	学生生徒等納付金収入	89,777	89,135
	経常費等補助金	62,989	63,009
	その他収入	4,469	23,495
	計	157,235	175,640
	支出		
	人件費	169,308	193,367
	教育研究経費	32,163	34,224
管理経費	12,350	12,964	
その他支出(※2)	0	0	
計	213,820	240,556	
教育活動収支差額		-56,585	-64,916
教 活 外	収		
	受取利息等	9	*
	支		
借入金利息等	0	*	
教育活動外収支差額		9	*
経常収支差額		-56,576	-64,916
特 別	収		
	資産売却差額等	0	*
	支		
資産処分差額等	0	*	
特別収支差額		0	*
基本金組入前収支差額		-56,576	-64,916
基本金組入額合計		0	-32
当年度収支差額		-56,576	-64,948

※1 前年度決算額は、新会計基準の該当科目に反映させた

※2 \* 「教育活動収支」の「その他収入・支出」に含めた

# 平成27年度 事業報告

## 岡山理科大学専門学校

建築と動物そして水生生物のスペシャリストを養成。学生、保護者、学校、地域、関連業界の皆様へ支持され愛される学校を目指します。



岡山理科大学専門学校は、昭和50年に岡山高等建築専門学校として開校し、昭和61年に現在の校名に改称し、今年で開校40周年を迎えます。この伝統ある教育を

さらにブラッシュアップするため、“厳しさの中にある丁寧さ”を兼ね備えた本校教育の原点に回帰し、社会人基礎力を備えた職業人の育成を図ります。

具体的な中期計画としては、

1. 専門職業に係る業界団体の意見や要望に応え得る人材育成のための教育改善を行い、授業の在り方や次年度の教育課程の改善を行いました。
2. 「職業実践専門課程」を有する学校として企業等と連携して実践的な職業教育に取り組み、教育効果を具現化しました。
3. 教職員の校務処理を効率的に行えるよう規程の整備と共にコンプライアンスの徹底を促進した結果、教職員の士気が上がり規律を遵守する意識が向上しました。
4. 時代と社会のニーズを先取りするべく将来構想検討委員会を設置し、本校の人的・物的資源を有意に活かすよう検討を重ねましたが、具体的な取り組みに至っていません。今後とも協議・検討を継続していき、具現化を模索していきます。

5. 昨年度に追加して建築学科（夜間部）の職業実践専門課程認定に向けて文科省に申請し、認定を受けました。

岡山理科大学専門学校 校長 村岡 正

### 教育の充実

#### ■社会に認められる学校づくり

教育の質保証と向上のため、以下の取り組みを行い、社会に求められる学校作りを目指しました。

- ・学生による授業評価
- ・保護者アンケート
- ・授業観察
- ・学校評価・学校関係者評価
- ・専門業界からの意見聴取

#### ■教育課程の再編

- ・動物看護師統一認定機構のコアカリキュラムに即した教育課程への再編を行いました。
- ・3年制の動物看護学科に臨床検査技術を修得できる科目の追加しました。
- ・ドッグトレーニング学科及びトリミング学科においては、教育内容を検討しましたが、目に見える改善に至っていません。翌年度の志願者動向を見て、学科再編や募集定員の見直しを行っていきます。

## ■職業実践専門課程認定校に相応しい学校運営

平成27年度より「職業実践専門課程」の認定を受けたことに伴い、文部科学省の指導に沿った学校情報の公開並びに企業等との連携を保った教育活動を行ってまいりました。

## 研究の充実

### ■産官学連携の教育

関連団体等が主催する各種研修会に参加し最新の技術や知識を修得し研究力の向上を図った結果、教職員の指導力向上に寄与しました。

また、アクアリウム学科においては学外研究施設や海外協力機関の要請に応え、新魚種における繁殖技術の研究を推進し、継続に努めます。

## 学生支援

### ■生活支援

- ・カウンセラーの配置により学生の心のケアをサポートに努めましたが、カウンセラーの常駐が経費の面から困難であり、成果に疑問が残りました。
- ・保護者に学校便りを年2回作成・発行し、郵送しました。保護者においては、学校の教育方針に対して多大な理解が得られました。

### ■就学支援

- ・専門職業人としての資質を高める目的で、各業界の専門家を講師に招き、社会通念についての特別講義を実施した結果、学生に好評を得ました。

### ■就職支援

- ・企業訪問により認知度向上と、本校に対する理解の促進を図るような施策を講じましたが、スタッフ不足から今一步効果を上げることが出来ませんでした。今後とも、推進していきます。
- ・就職支援会議の開催により学内での就職情報を

共有して効率化を図りました。就職状況の改善には継続的取り組みが肝要であると全員が認識しています。

- ・クラス単位での就職ガイダンスを実施し、キャリア教育の充実を図りましたが、教育課程内に「キャリアデザイン」という科目の履修をさせることを決定し、翌年度よりのカリキュラムに反映させました。
- ・就職活動ガイダンス

1年生	4月	キャリア教育講座 インターンシップ講座(1)(動物看護)
	6月	職業理解と労働法規講座 インターンシップ講座(1)(ドッグトレーニング)
	12月	履歴書の書き方講座(1)(アクアリウム)
	1月	履歴書の書き方講座(1)(建築、動物看護、ドッグトレーニング、トリミング) インターンシップ講座(1)(トリミング、アクアリウム)
	2月	合同企業説明会参加マナー講座(1)
2年生	4月	履歴書の書き方講座(2)(建築) 面接講座 インターンシップ講座(2)(動物系各学科)
	5月	合同企業説明会参加マナー講座(2) 内定礼状の書き方講座(トリミング)
	6月	内定礼状の書き方講座(建築、動物看護、ドッグトレーニング、アクアリウム)
	7月	合同企業説明会参加マナー講座(3)

## 社会連携・社会貢献

### ■地域の学校との連携

- ・地元の小中学校や高等学校における課題研究や総合学習の時間に本学の教育施設を活用して頂き、より一層の本校の知名度を上げることに奏功しました。

### ■地域との交流

- ・地元地域の行事に積極的に参画し、学生による

ボランティア活動の啓蒙を図りました。

## 学生の受入

### ■受験生との接触機会の拡大

- ・資料請求の実績の高い地域での進学説明会への参画
- ・SNSなどインターネットを利用した情報発信
- ・高い就職実績と資格取得率のタイムリーな情報発信
- ・社会人学生の受入推進

## 内部質保証

### ■FD・SD

- ・各種研修の随時開催を目指しましたが、教職員の時間的拘束が多く実現に至りませんでした。翌年度は、積極的に推進して、教職員の資質向上を目指します。
- ・学校の運営方針を学内で共有し、健全運営を目指し、経費の抑制に勤め、財務改善に結びつけることが出来ました。

## その他の取組

### ■適材意識

授業アンケートの結果を分析し、教員の適正配置に努め、専門性を考慮した学科構成員を目指しました。

複数名の産育休教員・校務助手の補充に、非常勤講師並びにアルバイト人員を採用し、経費を最小限に抑え、欠員による教育の低減を未然に解決しました。

### ■コスト削減

引き続き全教職員に対し合理化、光熱水費節約や

出張経費の削減について協力を求めましたが、教育・研究に欠かせない光熱水が幾分増加し、例年と同様の結果に終わりました。

### ■保護者向け学校便りの発行

学校内の様子（行事・イベント、各種競技会等）をリーフレットにまとめ、年度2回の保護者への配布を行いました。

## 主な行事

4月8日	入学式
4月14日	授業開始（夜間部） 授業開始（昼間部）
6月16日	球技大会
7月18日 ～8月23日	夏季休暇
9月7日 ～11日	前期末試験
10月1日	後期授業開始
12月24日 ～1月5日	冬期休暇
2月28日 ～2月3日	後期末試験
3月20日	卒業式

## 学生・教職員数

### ■在籍学生数

(平成27年5月1日現在)

課程・学科名		入学定員	入学者数	収容定員	在学者数
工業 専門課程	建築学科(昼間部)	40	46	80	88
	建築学科(夜間部)	20	17	40	33
	福祉住環境デザイン学科 (募集停止)		—	—	—
	<b>計</b>	<b>60</b>	<b>63</b>	<b>120</b>	<b>121</b>
商業実務 専門課程	映像情報学科 (募集停止)		—	—	—
	<b>計</b>	<b>(募集停止)</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>
文化・教養 専門課程	動物看護学科 3年制	30	9	90	35
	〃 2年制	20	23	40	52
	トリミング学科	40	20	80	35
	ドッグトレーニング学科	40	35	80	61
	アクアリウム学科	40	42	80	76
	<b>計</b>	<b>170</b>	<b>129</b>	<b>370</b>	<b>259</b>
<b>合計</b>		<b>230</b>	<b>192</b>	<b>490</b>	<b>380</b>
専攻科	建築学科専攻科	10	10	10	10
研究科	動物系総合学科研究科	10	14	10	14

(単位：人)

### ■卒業生数等一覧

(平成27年度)

区分	卒業生	就職希望者 A	就職者 B	就職率 B/A	進学者	退学者・ 除籍者	休学者	留年者 ※
岡山理科大学専門学校	189	149	141	95%	26	24	1	3

※ 修業年限を超えて在籍している学生数 (平成28年4月1日現在)

(単位：人)

主な就職先	鏡野町役場、(株)フォルム設計、(株)大本組、トヨタホーム岡山(株)、京都中央動物病院、ファープル動物医療センター、ペットサロンフェリーチェ、ペットショップヤマモト(2店舗)、広島県教育委員会(学校事務)、(株)リックコーポレーション、SEIWASOHIドッグスクール、(国研)水産総合研究センター 日本海区水産研究所、(株)環境総合テクノス 宮津事業所(滋賀県立琵琶湖博物館)、岡山中央魚市(株)、他116社
-------	---

### ■教職員数

(平成27年5月1日現在)

校長	教員	教員 計		事務職員
1	11	12		10

(単位：人)

## 財務関係

### ■ 事業活動収支

(単位：千円)

科目		年度	
		27年度 決算額	前年度 決算額(※1)
教育活動 収支	収入		
	学生生徒等納付金収入	322,572	338,213
	経常費等補助金	66	252
	その他収入	3,982	5,960
	計	326,620	344,424
	支出		
人件費	219,248	216,322	
教育研究経費	71,513	72,254	
管理経費	26,053	26,346	
その他支出(※2)	0	2,010	
計	316,814	316,932	
教育活動収支差額		9,806	27,492
教 活 外	収		
	受取利息等	20	*
	支		
借入金利息等	966	*	
教育活動外収支差額		-946	*
経常収支差額		8,860	27,492
特 別	収		
	資産売却差額等	905	*
	支		
資産処分差額等	120	*	
特別収支差額		785	*
基本金組入前収支差額		9,645	27,492
基本金組入額合計		-35	-906
当年度収支差額		9,611	26,585

※1 前年度決算額は、新会計基準の該当科目に反映させた

※2 \* 「教育活動収支」の「その他収入・支出」に含めた

### ■ 施設設備整備

(単位：千円)

事業名	金額
ケネルコップ等伝染病隔離エリア排便所 設置一式	580
半田町研修館2階エアコン交換工事	500
半田町研修館1階エアコン交換工事	400
動物細胞検査施設用備品	2,000
講義室空調機設備一式	600
第3アクア実習室エアコン交換工事一式	200

# 平成27年度 事業報告



## 玉野総合医療専門学校

21世紀の医療・保健・福祉のスペシャリストを育成します。



1. 教育面については、国家試験の全員合格を目標に全学を挙げて取り組みます。また同時に、少子高齢社会を迎えた今日に的確に応えられる人材の養成に取り組みました。
2. 研究面については、教員の研究活動を積極的にサポートし、教員個々のスキルアップを図り、学生教育の充実に寄与しました。
3. 教育活動、研究活動並びに地域貢献の更なる充実に向けた改善・改革を推し進めました。
4. 産学官連携を目指し、玉野市との連携を充実させるとともに加計学園の一員として産学官連携活動へも積極的に参画しました。

玉野総合医療専門学校 校長 平井 義一

### 教学の充実

#### ■非常勤講師の招へい

保健・医療・福祉の最前線で行われている最新の医療を学ぶために第一線で活躍されている医師、看護師、療法士などのスペシャリストを招き、専門分野の授業を行っています。毎年3月には専任教員と非常勤講師が一堂に会す連絡会議を開催し、より充実した講義内容とするために関連科目の講義内容のすり合わせや教育方法についてのディスカッションを行いました。

#### ■FD推進

多様な学生に対応するための教育力向上を目指し次の活動を行いました。具体的には、①教員自身で行う自己点検評価、②学生による授業アンケートの実施（前期・後期）、③校長、副校長、事務長、学科長による授業観察を実施しました。

また、自己研鑽できるよう個人研究費を配分し、学会への参加、論文発表、セミナーへの参加を促進しました。

### 研究の推進

#### ■研究活動の推進

本校では、教員の研究活動を推進しています。保健・医療・福祉のスペシャリストを養成する学校としての主たる目的は教育活動であることは言うまで

もありませんが、同時に研究活動を通じて最新の研究成果を学生に還元することも重要と考えます。そのため、学校全体あるいは学科の教育活動とのバランスを考慮し、可能な限り研究活動を行える環境を整えサポートしました。

## ■学内紀要

昨年に引き続き紀要を作成しました。例年、2年に1回のペースで発行していましたが、研究を奨励し、研究成果を発信する機会を設けるために昨年に引き続き今年度も発行しました。

# 学生支援

## ■修学支援

### ・入学前教育の実施

早期に合格した学生を対象に入学前教育を実施しています。高校での学習の妨げにならないよう配慮しながら、入学後スムーズに授業に参加できるよう導入教育を行っています。導入教育には十分に吟味した市販のテキストを採用し、入学までの間、継続して学習する習慣を身につけるため、定期的に課題を提出させ添削する方法を採用しています。学科によっては読書の習慣が乏しい学生の現状を踏まえ、読書も課題の一つとしている場合もあります。

### ・リメディアル教育の充実

新入生の学力を把握するために前期の授業が始まる前に基礎学力試験を行っています。試験の結果を踏まえ、各学科で必要となる基礎学力と学生個々の学力差を確認し、個々の学力に応じたプログラムによるきめ細かなリメディアル教育を実施しています。

## ■国家試験対策の強化

### ・効率的な学習方法、学習習慣の指導

入学後、早期から効率的な学習方法や継続して学習を行う習慣を身につけることの大切さについての指導を行いました。

### ・学習スペースの提供

学生がいつでも自主学習ができるよう、自習室を

始め、図書館、学生ホール、カフェテリアなどを開放しました。

### ・朝学

保健看護学科、理学療法学科では、4年生を対象に後期から朝学を実施しました。1時限目が始まる1時間前に全員が登校し勉強を行い、国家試験が行われる時間帯に最大限の力を発揮できるように夜型になりがちな生活習慣を改善し、朝型にするために行いました。

### ・基礎科目の強化

医療系の専門学校では人体の骨格、筋肉の名称や働きなど必ず覚えなくてはならない基礎となる科目があります。専門分野の学習に入る前に課題や補習などにより徹底した指導を行いました。

## ■生活支援

### ・コーディネーター制度、担任制度の導入

本校では、クラスに担任制度を導入しています。保健看護学科では、1学年に2名のコーディネーターを配置し、実習指導で手薄になった際にもサポートができる体制を整え実施しました。

また、介護福祉学科、理学療法学科および作業療法学科では担任制を導入しきめ細かなサポートを実施しました。

### ・カウンセリングの実施

外部からスクールカウンセラー並びに診療所勤務の現役の心理士を招き、定期的にカウンセリングを行いました。カウンセリングは事前予約制とし、教室から離れた場所にカウンセリングルームを設けるなど学生のプライバシーに配慮し、学生が相談しやすい環境を整備しました。

### ・スクールバスの運行

スクールバスを岡山駅西口～本校間、倉敷駅～茶屋町駅～本校間を運行しました。平成26年度に引き続き、遠方から通学する学生のサポートに加え、動く広告塔として運行を継続しました。

## ■就職支援

### ・求人情報の開示

教員室前に、全国各地から届いた求人情報を開示

し、生徒がいつでも閲覧できる環境を整えました。

#### ・個別就職相談

各学科で就職担当者を決め、学生の希望、学習状況などを鑑み、個別に就職相談に応えました。

#### ・就職ガイダンスの実施

保健看護学科では、1年次から4年次へと段階を踏んだガイダンスを実施し、入学後から就職に対する意識付けを行いました。

### ■その他

#### ・国際交流の実施

学校法人加計学園と教育交流協定を締結しているアメリカ ライト大学、同 フィンドリー大学、ブラジル パラナ・カトリナ大学、同 パラナ連邦大学から訪日文化研修団を受け入れ、学生主体による交流会を実施しました。

主な取り組みとして英語による学科紹介、日本の文化体験として餅つき体験などを行いました。最後にソーラン節を全員で踊り、同世代の外国の学生と接することで、国際理解・協力の一端を経験しました。

#### ・海外研修の実施

9月3日から約10日間、アメリカ研修を実施しました。

学生3名と引率教員1名で研修団を結成。研修はアメリカ合衆国の首都ワシントンDCで文化体験から始まり、シェネンドア大学（ウィンチェスター市）での研修、ホームステイ体験、後半は世界の経済の中心地であるニューヨークの視察。

#### ・教育・進路懇談会の実施

学校と家庭を結ぶ架け橋として「教育・進路懇談会」を実施しました。1、2年次生を対象とした懇談会を9月に、3、4年次生を対象とした懇談会を11月に行い、学校と保護者がそれぞれの環境下での学生の現状について連絡を取り合うことで、学生の変化を早期に把握し、学校、保護者と連携した適切な指導に役立てました。

## 社会連携・社会貢献

### ■地域貢献の推進

玉野市と連携協力し、市民向けのアカデミックな公開講座をはじめ生涯教育に関する出張講義、由加山朔日祭での講話、地元の中学生、高校生を対象とした講義や模擬授業を積極的に実施しました。また、たまの・港フェスティバルや玉野まつりなど地域のイベントへも積極的に参加し、地域になくはない存在として貢献しました。

### ■市民向け講座の実施

毎年3回公開講座を実施しました。玉野市民等の熱意に対して医療・保健・福祉分野の情報を幅広く積極的に提供しました。

今年度は、「あなたらしく生きるために」をテーマに、10月3日の校長による基調講演を皮切りに、『がん』になった時の心構えなど3回の講座を実施しました。毎年この講座を楽しみにしている多くの方々のために、今後も継続して実施します。

### ■玉野市内の行事への参加

玉野市最大のイベント「たまの・港フェスティバル(5月)」に参加し、血圧、脈拍、肺活量などの測定や脳年齢チェック（作業療法学科）などの健康増進体験ブースを出店しました。

また、玉野の中心地で行う盆踊り大会「かつからか祭り(8月)」では、今年度は約40名の学生並びに教職員が踊り連に参加しました。

さらに、学友会主催の学校祭「優勇祭(10月)」では、前夜祭と優勇祭の二日間日頃の厳しい勉強を忘れ、趣向を凝らした出し物、ミスコンや出展などで盛り上がりました。

1月に開催する「鏡開き」に市民団体等の参加を呼びかけ、多くの市民が来校してもらえるようにしました。

## 内部質保証

### ■自己点検・評価

#### ・教職員のFD・SD活動

加計学園本部主導による自己研鑽、検証制度を実施しています。PDCAサイクルによる目標、実行、検証、改善について自己点検・評価を実施することで学生への教育力向上に役立てました。

また、研修会への積極的参加も促し、個々のスキルアップを図りました。

#### ・授業アンケート

前期、後期の授業において学生による授業アンケートを実施しました。アンケート項目は、講義をする側を一方的に評価するだけでなく、学生自身の授業に臨む姿勢に対しても自己評価する項目もあり、双方向で検証ができる内容となっています。

#### ・学校評価の検証

学校全体の自己点検評価を行いました。評価項目は文部科学省が取り組んでいる職業実践専門課程の申請に必要な学校評価項目を採用しました。なお、評価結果はHPで公開します。

### ■教員授業参観の実施

#### ・教育力向上への取組

専任教員を対象に授業観察を実施しました。授業の方法や工夫などについて、客観的に評価するもので、校長以下副校長、学科長、事務長が観察を行いました。

工夫されている授業については、広く紹介し、工夫が必要な授業は、直接該当者に伝え、教育力の底上げを図ります。

## その他の取組等

### ■サークル活動の支援

#### ・学友会活動の奨励、多目的な活動支援の実施

本校は、専門学校としては稀な広いグラウンドと体育館を有しています。これらの設備を学生が活用できるよう部活動を奨励しています。その成果により、岡山県の専門学校各種学校交流スポーツ大会で総合準優勝の栄誉を手に入れました。

### ■同窓会との連携強化

#### ・在校生、卒業生との交流

実際の病院・施設の状況や就職試験の内容など、就職した卒業生から生の情報収集やアドバイスを受けることができる就職懇談会を実施しました。卒業生の話しを聞くことで、就業に対する不安を取り除き、意識を高める取り組みを行っています。

また、同窓会総会と同じ日程で行うことで、同窓会との連携も図っています。

## 学生の受入

### ■多様な入試制度の実施

多様な価値観を持った方々を受け入れるために、平成26年度に引き続き、多様な方法による入試を実施しました。また、岡山県以外からの入学希望者に応えるために地方会場も設けました。

### ■職業訓練生委託事業の実施(介護福祉学科)

雇用対策の一環として平成26年度に引き続き岡山県が実施する職業訓練事業(介護福祉士養成)に申請し、受け入れ先となりましたが、今年度は、本校での訓練希望はありませんでした。

## ■入学金減免制度実施

指定校入試で合格した学生の入学金の一部を減免する制度を継続しました。

玉野市内の高等学校出身者で、AO入試、特別入試で合格した学生への入学金の一部を減免する制度を継続しました。

## ■看板設置

玉野市を訪れた方々へ玉野市内にある唯一の高等教育機関であることをアピールするために最寄りの宇野駅と瀬戸大橋線から宇野線に乗り換える拠点である茶屋町駅に看板を設置し、広く認知度向上に努めました。

## ■多様なオープンキャンパスの実施

平成26年度オープンキャンパスの開催日数、及び内容を継続し、高校生に魅力あるイベントを実施しました。

また、山陰、姫路、福山方面からの受験者の確保を目指し送迎のためのバスを運行しました。

## 人事・組織

## ■適切な人材の確保、配置

看護師、保健師、介護福祉士、理学療法士および作業療法士の養成校として法令を遵守し、基準に基づいた教職員を確保し、適切に配置しました。

また、教育効果を最大限に考慮し、実務のスペシャリストを講師として迎え入れ、充実した講義の実施に努めました。

## 主な行事

4月4日	入学宣誓式
4月25日	津山出張オープンキャンパス
5月9日	宣誓式(保健看護学科)
5月16～17日	たまの港フェスティバル
5月24日	第1回オープンキャンパス
6月1日	AO入試エントリー受付
6月27日	第2回オープンキャンパス
7月3日	国際交流(外国人研修団受入)
7月18日	第3回オープンキャンパス
8月1日	第4回オープンキャンパス
8月29日	第5回オープンキャンパス
9月5日	教育・進路懇談会
9月3日～14日	海外研修(アメリカ合衆国)
9月26日	第1回入試説明会
10月24日	優勇祭(学校祭)
11月14日	推薦入試Ⅰ期
12月5日	推薦入試Ⅱ期、社会人入試Ⅱ期
12月12日	第2回入試説明会
12月18日	壮行式(理学療法学科・作業療法学科)
1月7日	鏡開き
1月23日	一般入試Ⅰ期
2月14日	国家試験 受験(保健師)
2月16日	国家試験 受験(看護師)
2月27日	一般入試Ⅱ期
2月28日	国家試験 受験 (理学療法士・作業療法士)
3月5日	非常勤講師連絡会議
3月10日	卒業証書授与式
3月18日	実習指導者連絡会議
3月26日	第6回オープンキャンパス

## 学生・教職員数

### ■在籍学生数

(平成27年5月1日現在)

課程・学科名		入学定員	入学者数	収容定員	在学者数
医療専門課程	保健看護学科	40	43	160	161
	理学療法学科	40	39	160	151
	作業療法学科	40	26	160	103
	計	120	108	480	415
教育・社会福祉 専門課程	介護福祉学科	40	20	80	44
	計	40	20	80	44
<b>合 計</b>		<b>160</b>	<b>128</b>	<b>560</b>	<b>459</b>

(単位：人)

### ■卒業生数等一覧

(平成27年度)

区分	卒業生	就職希望者 A	就職者 B	就職率 B/A	進学者	退学者・ 除籍者	休学者	留年者 ※
玉野総合医療専門学校	94	94	91	97%	0	37	3	33

※ 修業年限を超えて在籍している学生数 (平成28年4月1日現在)

(単位：人)

主な就職先	岡山医療センター、心臓病センター榊原病院、岡山リハビリテーション病院 四国こどもとおとなの医療センター、福山医療センター、松江医療センター 他
-------	--

### ■教職員数

(平成27年5月1日現在)

校長	副校長	教員	教員 計	
1	1	30	32	事務職員  8

(単位：人)

## 財務関係

### ■事業活動収支

(単位：千円)

年度 科目		27年度 決算額	前年度 決算額(※1)
教育活動収支	収入		
	学生生徒等納付金収入	488,816	479,260
	経常費等補助金	25,039	24,083
	その他収入	13,687	20,645
	計	527,542	523,988
教育活動収支	支出		
	人件費	393,797	370,487
	教育研究経費	107,572	114,674
	管理経費	40,855	42,105
	その他支出(※2)	42	798
計	542,267	528,063	
教育活動収支差額		-14,725	-4,076
教 活 外	収 受 取 利 息 等	29	*
	支 借 入 金 利 息 等	0	*
	教育活動外収支差額	29	*
経常収支差額		-14,696	-4,076
特 別	収 資 産 売 却 差 額 等	0	*
	支 資 産 処 分 差 額 等	0	*
	特別収支差額	0	*
基本金組入前収支差額		-14,696	-4,076
基本金組入額合計		0	0
当年度収支差額		-14,696	-4,076

※1 前年度決算額は、新会計基準の該当科目に反映させた

※2 \* 「教育活動収支」の「その他収入・支出」に含めた